

史上最高のバッドエンドをキミに

底辺の男が愛した女性は、宇宙人の愛玩動物（ペット）でした

◎登場人物

夏虫 治（なつむし おさむ）
井森 良子（いもり りょうこ）
猫田 愛（ねこた あい）
亀岡 理央（かめおか りお）
植田 正史（うえだ ただし）
羽鳥 陽己（はとり はるき）
タカラ（たから）
魚見 冴（うおみ さえ）

地方都市。とある廃校の屋上。舞台前面には柵。

○事件への道のり1

電車のボックス席に座り、パソコンで何か作業をしている夏虫。
そこに、井森が現れる。

井森 何しようとしてるの？

夏虫 ……。

井森 驚いた？ 私がここにいて。

夏虫 (じーっと井森を見る)

井森 (笑って) 困惑してる困惑してる。

夏虫 なんで？

井森 「同居人」だから。

夏虫 じゃなくて。今日は仕事だって。

井森 目的地は東京？

夏虫 どこでもいいでしょ？ つけてたの？

井森 つけてたよ。そりゃ。私はいっだって夏虫くんをつけてる。

夏虫 放っておけばいいのに。

井森 本当、そう思う。

夏虫 なんだそれ？

井森 自分でも止められないから。

夏虫 なんで？

井森 車ってすごいスピードで走ってたなら、ブレーキかけても暫く前に進ん
じやうでしょ？ 私は今そういう状態。

夏虫 いつ？

井森 え？

夏虫 いつそのブレーキは踏んだの？

井森 高校3年生の時かな。

夏虫 ブレーキ踏んだ後、12年も止まらないわけ？

井森 そう。自分でもおかしいと思うけどね。

夏虫 俺は。

井森 なに？

夏虫 俺は12年前に脱線したんだよ。

井森 そうかな？

夏虫 脱線だよ。

井森 私たちってさ、ずっと一緒にいるわけじゃん？

夏虫 ずっとではない。

井森 でも1年以上一緒に住んでたら、ずっと一緒って言ってもいいんじゃない？

夏虫 俺は、「住まわせてもらってる」だけだから。

井森 ヒモだね。

夏虫 まあ、世間的に見ればね。

井森 私がヒモを握りしめてるから。キミの前に私がいる。

夏虫 そういうことになるね。

井森 私たちってさ、長い付き合いなのに、まだお互いのことあんまり知らないよね？

夏虫 興味ないからね。

井森 ねえ、しようよ。昔話。

夏虫 興味ないって。

井森 東京に着くまで1時間半ってところかな？ しようよ。昔話。

夏虫 なんて？

井森 だってさ、私たちがなかなか奇跡的な体験をしてると思うんだよね。

唯一無二の奇跡の共有者じゃない？

夏虫 俺の奇跡は今こうしてまだ生きてるってことだよ。

夏虫、井森、静止。

○事件前夜

植田、羽鳥、猫田、亀岡、タカラ、入ってきて歩き回る。

片手にはスマホ。ボンボンと何か呟いている。

6人 ベントラ、ベントラ、ベントラ、スペースピープル。ベントラ、ベントラ、スパー

スपीプル。ベントラ、ベントラ、スペーススピープル。ベントラ、ベントラ、ベントラ、スペーススピープル。

「住所不定無職という肩書きを自分が手に入れるとは思わなかったな。」

「住所不定無職になってやることといたら・・・殺人？」

「そしたらいろんな芸能人やユーチューバーが俺のこと話すよね。」

「もしかしたら人生で一番、みんなが俺のことを理解してくれようとする瞬間かもしれない。」

「そしてどうせ俺は他人のせいにしてるだの、努力が足りないだの、他にやり方はなかったのかだの、責め立てられるのだろう。いつも悪いのは全部俺。自己責任論。」

「俺は模範的生徒だ。いい人を演じるのには慣れてる。自分も他人も騙して生きてきた。」

「買い物した。店員さん、いい人だったな。」

「ナイフを買いました。」

「通販にしなかったのは、最後に人と話したかったからか？ 自分でもわからない。」

「山手線で人を殺します。」

「途中で捕まったら、ジョーカーの成り損ないとか言われるのかな。」

全員「時間だ。出かけよう。」

井森と猫田、亀岡以外、立ち上がって去る。

○事件数日後

井森と猫田、亀岡。

猫田 迷惑なんだけど！ 何今更？

亀岡 そうだよ？ わかるでしょ？ 今、愛がどういう気持ちか！

井森 でも！ 猫田さんだって、亀岡さんだって、知りたいでしょう？ どう

して夏虫くんがあんなことしたのか？

猫田 別に？ 知りたくないし、むしろ、もう放っておいて欲しいんですけどー！

井森　でも！　だって、夏虫くんは猫田さんのことが好きだったんだよ？
猫田　いや、知らないし。どうでもいいから！
井森　夏虫くんの想いを知ってあげて欲しくて。
亀岡　押し付けがましくない？　そういうの。
井森　ごめん。
亀岡　謝るくらいなら……
井森　私のエゴも入ってるってことはわかってるの。でも！　夏虫くんは。
亀岡　私、嫌いだったし。夏虫のこと。正直、昔から、気持ち悪いと思ってた。
ね？　愛。
猫田　いや、別にそういう……
亀岡　気持ち悪いやつ謎の行動なんて理解したいと思わないでしょ普通。
井森　わかる、わかるよ。昔から亀岡さんが夏虫くんのこと、いや、私のこと
も含めて、気持ち悪くなって、そう思われてたのは知ってるし、知ってるけど
知らないフリしてたし、でもね、でも猫田さんもそうだった？
猫田　そうだったって何が？
井森　私とか夏虫くんのこと気持ち悪いって思ってた？
猫田　それは……
亀岡　思ってたよ！　思っても言うわけないでしょ？　愛は優しいから。
井森　亀岡さんには聞いてない！
亀岡　愛が言いづらそうだから代わりに言ってあげてるの！
井森　猫田さんは亀岡さんのものじゃないんだよ？
亀岡　っそんな当たり前のこと言われなくてもわかってる！
猫田　気持ち悪いと、思ってた。
井森　え？
猫田　思ってたよ、私。夏虫くんも井森さんも気持ち悪いって。
亀岡　愛。
井森　猫田さん、そんな人じゃなかった。
亀岡　そういう決めつけが一番うざいの。
猫田　井森さんの知ってる私は12年前の私でしょ？　高校からもう12年
も経ってるし、変わるでしょ人は。
井森　そうかもしれないけど。
猫田　変わったでしょ！？　あなたも！

井森 え？

猫田 高校時代は天文部？ だっけ？ そんなに目立つ子じゃなかったし、休み時間もベーシックインカムがどうかって、政治系の難しそうな本読んでいるタイプで理央とかからは変人に見られるような子だったけど、東大合格して、与党の論文コンテストも受賞して、順調に政治学者？ への道進んでるんでしょ？

井森 ……。(猫田をじっと見る)

猫田 なに？

井森 すごい、知ってくれてるんだね。

亀岡 私が喋ってるだけ。

井森 私のこと喋るの？

亀岡 別に。話すでしょ普通に。同級生から有名人出たら。

井森 有名人って。

猫田 聞いてたから、聞いてたこと喋っただけ。

井森 やっぱり猫田さんは変わってない。

猫田 変わったって。

井森 今日だって、本当に嫌だったら来なければいいもんね。そうだよ。やっ

ぱり猫田さんは変わってない。いっつもみんなのこと気にかけて

猫田 やめてやめて。そういうのじゃないから。

亀岡 (同時に) もうそういうの、いいから！

井森 だって！ 高校時代の猫田さんは。

猫田 わかったって。自分のことなんだから！ 自分がどうだったかなんて

大体知ってるし！

井森 本当に？ 本当に知ってる自分のこと？

猫田 は？

井森 本当は覚えてないんでしょ？

猫田 な。

井森 夏虫くんはね、宇宙人に出会ったの！

猫田 ……。

井森 私も、見たから。宇宙人。

猫田 はあ？

亀岡 (同時に) またそうやって！

井森 猫田さんも！ 見てるんだよ？ 宇宙人！

猫田 は？ あー、ごめん。ああ、そう。そういう感じね。私には大したことできないけどさ、病院、行った方がいいよ。じゃあね。元気になったらまた会いましょう。宇宙人によろしく。

猫田、去ろうとする。

しかし、宝箱のようなものをもった魚見が入ってきて、押し戻される。

魚見 いやあ、申し訳ございませんねー。5分ほど遅れてしまいました。

猫田・亀岡 魚見先生！

魚見 お久しぶりです猫田さん。亀岡さん。（宝箱のようなものを置く。）

亀岡 どうも。

猫田 ……お久しぶりです。

魚見 同窓会みたいです。

亀岡 そんな仲じゃないですよ。クラスも違うし。

魚見 そうでしたっけ？ みんなで仲良く屋上でこうして。

亀岡 そんな思い出はありませんよ。ね？ 愛？

猫田 うん。

魚見 なるほどなるほど。それは非常に知的好奇心をそそられますね？

亀岡 なんの話？

井森 猫田さん、本当に覚えてないんだね。

猫田 だから何を？

井森 猫田さんには魚見先生が必要なのに。

猫田 どういうこと？

魚見 （嬉しそうに）いや全く。人間というのは、本当に理解に苦しみますよね。え。この世に生を受けた生物の道理から外れています。そう思いません井森さん？

井森 はい。

猫田 魚見先生。久しぶりに会ったのに申し訳ございませんが、私はここで。

魚見 せっかくお休みの日なんですから、ゆっくりお話ししませんか？

猫田 すいません。忙しいので。

魚見 そんなことはないんじゃないですか？ 猫田さん、明日も明後日も明

明後日も来週も再来週も、来月も再来月もお休みだって聞きましたけど。

猫田 ……誰がそんなこと。

魚見 「被害者の女性について調べてみた。」最近はなんでもわかりますねー。

亀岡 やめてもらえますか？

魚見 熱狂的なファンというのはいるものですね。中学時代になんとなく出

演したB級SFカルト映画「サキュバス・スペース・インキュバス」。その主

演「猫田愛」を未だに追いかける人がいるのですから。

亀岡 気持ち悪い。

魚見 気持ち悪いですか？

亀岡 吐き気がします。15年以上前の映画ですよ？

魚見 好きという気持ちは気持ち悪いですか？

亀岡 はい？

魚見 好意を向けられることは、嬉しいことではないのですか？

亀岡 場合によります。

魚見 猫田さんもそうですか？

猫田 え？ 私は。いや、私も、理央と同じ、ですかね？

魚見 （非常に嬉しそうに）ほおほおほおほお！

猫田 なんですか急に？

亀岡 なんなの！

魚見 そうですかそうですか。

井森 魚見先生は変わってませんね。変わらず変人です。

魚見 私は変わらないんですよ。でも変わろうともしています。だからこそ1

2年ぶりにあなたがたの前に現れたのですから。

猫田 井森さんが先生に連絡を？

魚見 だいぶ各地を転々としていたんですがね、うっかり捕まっちゃいま

した。

亀岡 もういい！ もうやだ！ 変なことに私たちを巻き込まないで！

魚見 亀岡さんには感謝してるんですよ。ですが、もう気づいてるのではあ

りませんか？ もう限界です。

魚見 最終ですかね？ 大丈夫ですか？

井森 この時間スタートですから、みんな車で来てますんで。

魚見 猫田さんが来たいって言ったんですか？

猫田 ここにですか？

魚見 亀岡さんの方がこの屋上に来たくないご様子だったので。

亀岡 愛が、行くだけ行ってみたいって言うから。

井森 猫田さんやっぱり。

猫田 なんとなく、だから。

亀岡 魚見先生は私のことも知ってるんですか？

魚見 ガタンゴトン。ガタンゴトン。ガタンゴトン。

亀岡 小学生みたいなことやめてくださいよ。

魚見 落ち着きませんか？ 電車の音。

亀岡 なんてはぐらかすんですか。

魚見 落ち着きませんか？ 電車の音。

亀岡 ……。

井森 ちよつと、わかります。

魚見 電車。よく「敷かれたレール。」なんて比喻を用いることもありますが、彼も敷かれたレールの上にはいたんですかね？

井森 夏虫くんは脱線したと言っていました。

魚見 なるほど脱線。それは大事故ですねえ。

井森 はい。

魚見 井森さんが過ごした12年間、猫田さんが過ごした12年間。亀岡さんが過ごした12年間。そして夏虫くんの過ごした12年間は、まるで別世界だったことと思います。それでも、この場所は、彼と社会をつなぐ絆でもあった。だからこそ、こうして我々は再会を果たしたのでしょう。

井森 猫田さん、私、猫田さんに魚見先生の話聞いて欲しいと思って。

猫田 なんで？

井森 それで、忘れてること、思い出して欲しくて。

猫田 関係あるの？ 夏虫くんと私の記憶。

井森 うん。

猫田 どうしてそれを井森さんが？

井森 それは。

魚見 井森さんは、夏虫くんのが好きなんですよ。

猫田 なんですかそれ？

亀岡 ねえ、愛。やっぱり帰ろう？

猫田　でも。

魚見　猫田さん、今の生活は苦しいですか？

猫田　なんですか急に。

魚見　猫田さんは幸せを手に入れるために必要なものはなんだと思いますか？

猫田　知らない。

魚見　何があれば幸せになれると思いますか？

猫田　知らないですって。

魚見　何があれば幸せになれると思いますか？

猫田　いや。

魚見　何があれば幸せになれると思いますか？

猫田　怖いですって！

魚見　何があれば幸せになれると思いますか？

猫田　ああ、じゃあもうあれです。愛！私の名前ですし、愛があれば、幸せになれるんじゃないですかね？

魚見　なるほどなるほど。ただ、こんな風に考えた者たちもいたんですよ。「幸せ」という概念がなければよいのではないかと。幸せという概念そのものがないければ、生命体として、種の繁栄のみを効率的に行える。そしてその幸せという概念を消し去るための教育を始めたのです。

猫田　なんの話ですか？

魚見　私の話です。でも、それってつまらないじゃないですか？ 効率性・合理性の行き着く先は、「無」、ですよ。「無」。合理性の道は1本道です。でもそれではつまらない。こうして複雑に絡み合って、絡み合うことが辛くなって、時にはその絡まりを紐解いたりしながら、少しずつ、「有」になっていく。「無」から「有」が生まれる。そんなことが楽しいじゃないですか。

猫田　井森さんがおかしくなったのは魚見先生のせいですか？

井森　別におかしくなっていないって。

魚見　ただ今回のことは、ある意味、私の過ちでもあるのです。

猫田　ああ、もう、ついていけない。

魚見　大丈夫。ゆっくり紐解きますから。

亀岡　ねえ愛。もう。

猫田　単刀直入を希望したいんですけど。

魚見 (嬉しそうに)それじゃあ、つまらないじゃないですか。

○想い出1

ぼーっと空を見つめる夏虫。

植田 なあ夏虫。学校は慣れてきたか？

夏虫 別に。

植田 別になってなんだ？ 俺の目からは不登校になる前よりずっと明るくな

って、みんなにも溶け込んで、いい感じに見えるけどな。そこんどこどうだ？

夏虫 そっちの方が、やりやすいから、そうしてるだけです。前と同じように
やったら、前と同じになる。

植田 また不登校になるってことか？

夏虫 まあ、そんな感じですかね。

植田 まあ、夏虫。無理はしなくていいんだぞ？

夏虫 無理はしてませんよ。学校の方が楽ですし。

植田 どういう意味だ？

夏虫 先生。僕の特技知ってます？

植田 知ってる知ってる。一発ギャグだろ？

夏虫 愛想笑いです。

植田 愛想笑い？

夏虫 家で笑ってないと、ぶたれるんで。

植田 そんなわけないだろ。

夏虫 嘘です。

植田 は？ だろうな。

夏虫 家の方が勉強させられるんで。

植田 それは仕方ないだろ。教育熱心で、弁護士さんで、なあ。優秀なご両親
だと思っぞ。

夏虫 まあ、世間的に見れば、そうなのかもしれませんね。でも、これしか知
らないんで。恵まれてるとかはわからないです。

植田 (食い気味で)もつと自分がいかに恵まれてるか自覚した方がいいぞ。俺
なんか小さい頃から「お前は汚い顔だなあ」なんて言われて、暴言吐かれなが

ら育ったんだから、それに比べたら立派な親御さんだと思うぞ。ま、俺は俺で、そのおかげで強く育ったかもしれないけどな！

夏虫 そうですか。

植田 ま、そんなわけだから、卒業まであんまり無理せず、楽しくやれよ。受験はがんばらないといけないけどな。

夏虫 この夏は地獄ですよ。

植田 すごい猛暑らしいしな。

夏虫 らしいですね。

植田 ああそうそう。夏といえば、天文部は何か最後の活動するのか？ 合宿とかするなら、先生力貸すぞ？ 井森にも話して。

夏虫 うーん。どうですかね。勉強忙しいんで。

植田 忙しいのは当たり前だろ。でも、高校時代は人生に一回しかないからな。勉強も大事だけど、そういう夏の思い出、みたいなのも大切なもんだぞ！

夏虫 まあ、考えておきます。

植田 高校生活最後の夏だからな。前向きに考えておいてくれ。井森とも相談して、な。

夏虫 はい。

植田 じゃあ先生、職員会議があるから、これで。また様子聞かせてくれな。

夏虫 はい。

植田、去る。

しばらく空を見つめる夏虫。

夏虫 (ボソツと) ベントラ、ベントラ、ベントラ、スペースピープル……。

立ち上がる。

夏虫 ベントラ、ベントラ、スペースピープル……。

柵の方へ向かい、徐々に声を大きくしていく。

夏虫 ベントラ、ベントラ、スペースピープル。ベントラ、ベントラ、スパー

スピープル。ベントラ、ベントラ、スペースピール！

そこに猫田が入ってくる。

猫田 何してるの？

夏虫 いや。あ、いや。なんでもない。

猫田 なんでもないリアクションじゃなくない？

夏虫 ほんとに、あれ。なんでもない！

猫田 なんか叫んでなかった？ ベントラベントラ？

夏虫 猫田さんには関係ないから。

猫田 でも見ちゃったからなあ。気になるなあ。

夏虫 なんでもないから。

猫田 なんでもない時に（夏虫を真似して）「ベントラ、ベントラ、スペース

ピール。」ってやらないでしょ？ あれ？ なんか必殺技的なやつ？

夏虫 違うよ。

猫田 じゃあ一発ギャグとか？

夏虫 そう！ もう、そうです！ 一発ギャグです。

猫田 そっか。確かに夏虫くん、よくみんなの前で一発ギャグとかやって滑っ

てるもんね。

夏虫 滑り笑いっていうジャンルがあって。

猫田 すごいな、って思ってるよ。私にはできないからさ。

夏虫 別に、すごくはないよ。

猫田 で？ 何やってたの？

夏虫 だから一発ギャグの練習だって。

猫田 私テレビで見たことあるんだよね。

夏虫 え？

猫田 「ベントラ、ベントラ」ってUFO呼ぶやつでしょ？

夏虫 いや。え？ そうなの？

猫田 夏虫くん、もしかしてUFO呼ぼうとしてたの？

夏虫 いや、別に、そういう

猫田 面白そう！

夏虫 え？

猫田 UFO呼ぶの、面白そうだね！ どうやるの？ なんか条件とかあるの？ 私もやってみる。

夏虫 猫田さんもやるの？

猫田 うん。UFOみたいじゃん？

夏虫 でも。

猫田 条件とかあるの？ やり方とか？

夏虫 条件、というか、まあ、こうやって、空に向かって「ベントラ、ベントラ、スペースピープル」って唱え続ける、感じの。

猫田 こう？ 「ベントラ、ベントラ、スペースピープル」

UFOを呼ぼうとする2人

曲がかかる。

夏虫 うーん。なんか、ちよつと違うかな。こう、「ベントラ、ベントラ、スペースピープル」って。

猫田 ベントラ、ベントラ、スペースピープル

夏虫 そうそう。ベントラ、ベントラ、スペースピープル

猫田 ベントラ、ベントラ、スペースピープル

夏虫 ベントラ、ベントラ、スペースピープル

全員出てきてダンスをして、順番に去る。

○事件から1年ほど前1

屋上で酒を飲む夏虫と羽鳥。

羽鳥 いい思い出じやない？ お酒が進むよ。

夏虫 今思えば、それが一番楽しい瞬間だったんですかね。

羽鳥 俺もこっちの高校だったらなあ。

夏虫 羽鳥さんは県内1位。こっちは県内3位。羽鳥さんの来るような高校じゃないですよ。

羽鳥 そんなの大して変わらないと思うけどなあ。ほら、夏虫くんこの出身でいるでしょ？ ほら東大でた。

夏虫 井森良子ですか？
羽鳥 それそれ。だから大して変わんないって。
夏虫 あいつが特殊なんですよ。
羽鳥 ずいぶん親しげじゃない？
夏虫 同じ部活だったんで。
羽鳥 へえー。何部？
夏虫 天文部。
羽鳥 星も好きなの？
夏虫 宇宙が好きなんで。
羽鳥 井森良子も？
夏虫 どうでしょうね。
羽鳥 わかんないの？
夏虫 いや、天文部って、俺とあいつだけで。
羽鳥 へえ？
夏虫 うちの学校。部活発足には最低2人必要なんですけど。
羽鳥 じゃあ2人だけ？
夏虫 俺、1年の頃から孤立してたんで、そしたらあいつが変な気を使って一緒に部活立ち上げるとか言ってる。
羽鳥 それも青春だねえ。
夏虫 あいつ、文芸部も兼部してたんです。だから別に天文とか、それこそS
Fに興味があったわけじゃなくて。
羽鳥 夏虫くんに興味があったってわけだね？
夏虫 なんてなのかわかんないですけど。
羽鳥 なんてなんだろうね。聞いたことはないの？
夏虫 ありますよ。
羽鳥 なんて？
夏虫 同じ匂いがしたから、って。
羽鳥 なるほど。直感ってやつ？
夏虫 いや、あいつも何かとうるさい両親だったみたいで。それで、ですかね。
羽鳥 環境が生む匂いってことか。
夏虫 羽鳥さんは高校の頃、何部だったんですか？
羽鳥 何部に見える？

夏虫 面倒くさいですよ、そういうの。

羽鳥 大切なコミュニケーションだと思っけど？

夏虫 サッカー？

羽鳥 ぶー。

夏虫 野球？

羽鳥 ぶー。

夏虫 バスケ？

羽鳥 ぶー。

夏虫 これ大切なコミュニケーションですか？

羽鳥 夏虫くんのノリが悪いんだよ。キャバクラの女の子ならもつと盛り上がる。
がる。

夏虫 俺をキャバ嬢と一緒にしないでください。で？ 何部なんです？

羽鳥 ワンダーフォーゲル部。

夏虫 そりゃキャバ嬢と盛り上がるわけですね。

羽鳥 だろ？ 俺が立ち上げたんだ。

夏虫 何するんです？

羽鳥 ワンダーフォーゲルっていうのはドイツ語で「渡り鳥」って意味なんだ。社会のルールから抜け出したってこと。で、俺たちは夏は登山に川下り、

冬はスキーにスノボってな感じでなんでもやった。

夏虫 さすがベンチャー社長はやるのが違いますね。

羽鳥 その時だよ。山小屋で夜を過ごしてるときに、俺は見たんだ。

夏虫 UFOですか？

羽鳥 そう！ 忘れられないんだもう！ その光景が！ それからはもう宇宙の虜だよ。プラトンもカントもウイトゲンシュタインも、その思考の原点は

「宇宙」への問いだったと言う。「宇宙の果てには何があるのか？」「この世界にはじまりはあるのか？」「広大な宇宙の片隅の、そのまた片隅に住む我々は一体何者なのか？」「片隅同士、宇宙人との相互理解は、果たして可能なのか？」宇宙は哲学の原点だよ。大赤字だけど宇宙事業に投資も始めた。だからキミがここで、UFOを呼んでるのを見てね。つい興奮しちゃってね。いい歳したおじさんが必死にUFO呼んでたからさ。

夏虫 あれは忘れてください。

羽鳥 忘れられないだろう？ あんなの。猫田さん？ だっけ？ も忘れら

れないんじゃないかな？

夏虫 どうですかね。

羽鳥 きつとそうさ。

夏虫 羽鳥さんはポジティブですね？

羽鳥 夏虫くんはネガティブだねえ？

夏虫 俺、大学行かなかったんですよ。

羽鳥 別にいいじゃない？

夏虫 行こうと思えば、マーチくらいは行けたと思うんですけど、でも嫌で。

羽鳥 どうして？

夏虫 反抗期？ ですかね。親の言いなりになりたくなかった。受験行つたふりして、ゲーセンで時間潰してました。いやあ、親の怒り狂った様子は未だに目に焼き付いてますね。

羽鳥 就職したの？

夏虫 働くのも嫌だったんで、とりあえず専門学校に。なんか、自動車系の。

ほら、期間工つてあるじゃないですか？ それだったらまあ、そこそこのお金もらいながら生きていけるかなとか思つて。

羽鳥 それはご両親、怒らなかつたの？

夏虫 もう無視ですよ無視。もうその時には親の興味は弟がいかにいい大学

行くかに移つてたんで。

羽鳥 弟いるの？

夏虫 はい。

羽鳥 何個下？

夏虫 3です。

羽鳥 何してるの今？

夏虫 30目前になつてもフラフラしてる俺と違って、大手企業でバリバリやってますよ。

羽鳥 夏虫くんはフラフラしてるの？ 期間工は？

夏虫 なんか、合わなかつたんですよねー。一緒に働く人たちと。で、警備会社とか派遣会社とか、やっつては見たんですけど、まあ、全部合わなくて。

羽鳥 人が？

夏虫 はい。人が。

羽鳥 ふうん。

夏虫 羽鳥さんみたいな人ばかりなら、まあ、合うんでしょうけどね。ああ
言うところにはなかなかいなくて。

羽鳥 俺みたいになつて言うのは？

夏虫 なんですかね。頭の回転が早いというか。

羽鳥 ふうん。今は何してるの？

夏虫 俺ですか？

羽鳥 うん。

夏虫 小説で一発当てられないかな、みたいな。

羽鳥 へえ、いいじゃん。ジャンルはもちろんSFでしょ？

夏虫 まあ、はい。

羽鳥 ねえ、夏虫くん。隠してるでしょ？

夏虫 何をです？

羽鳥 UFO、来たんでしょ？

夏虫 え？

羽鳥 だから30目前になつても本気でUFOを呼べるんだよ？ 違う？
ネガティブなキミがUFOを信じて屋上で「ベントラ、ベントラ」ってさ、や
らないでしょ？ やるのは信じてるからだ。UFO、見たんでしょ？

夏虫 見てないですよ。

羽鳥 嘘はよくないぞ。

夏虫 嘘じゃないです。UFOは見てません。

羽鳥 UFOは？ ってことは？

夏虫 宇宙人なら。

羽鳥 え？ え？ え？ え？ 本当に？ 本当に見た？ 宇宙人？ まじ
で？

夏虫 いや、正確には。

羽鳥 なに？ 正確には？

夏虫 宇宙人の愛玩動物（ペット）。

羽鳥 ペット？ 何それ？ どんな姿？ モンスターみたいな？

夏虫 人型です。

羽鳥 人型？

夏虫 さすが宇宙人のペット、というか、そいつは、見る人の見たい姿をして
るんです。

羽鳥 見たい姿？
夏虫 羽鳥さんって今一番好きな女性は？
羽鳥 ……アンミカ。
夏虫 なら羽鳥さんにはアンミカに見えて。
羽鳥 夏虫くんからは猫田さん？ に見えるってことか。
夏虫 羽鳥さんがマジでアンミカ好きなら、ですけど。

そこに井森が入ってくる。

羽鳥 え？ あれ？ 井森良子？

夏虫 どうして？

井森 この街の噂の伝達スピード、舐めない方がいいよ。最近こっち方面に向かうキミの顔、たくさん目撃されてるよ。

夏虫 ……だからこんな街嫌いなんだよ。

羽鳥が去る。

○事件への道のり2

井森と夏虫、一緒に電車のボックス席に座る。

井森 東京に何しに行くの？

夏虫 行き先が東京とは言っていない。

井森 私、昔から勘がいいんだよね。

夏虫 そう思うよ。

井森 羽鳥さんみたいになりたかった？

夏虫 俺が？ まさか。

井森 なりたそうだったけどなあ。

夏虫 夢ってのはさ。

井森 SF作家？

夏虫 まあ、それも含めてね。

井森 他にあるの？

夏虫 まあ。

井森 なに？

夏虫 俺がしたかった話はそうじゃなくて、夢って言うのはさ、みんなが叶え
ちゃったら夢じゃないんだよ。

井森 みんなで夢叶えちゃいけないの？

夏虫 幸せじゃない人がいないと幸せな人は存在しない。幸福っていうのは
相対的なんだ。夢もそう、相対的なんだよ。この世の多くのことは相対的さ。

井森 相対的って言いたいだけ？

夏虫 違うよ。

井森 ねえ、猫田さんとこ行くの？

夏虫 なんで？

井森 今書いてるのは遺書か何か？

夏虫 変な勘ぐりはやめてほしい。

井森 だって！

夏虫 このままついて来るつもり？

井森 途中下車しろってこと？

夏虫 泊まるとこくらい井森ならどうとでもなるでしょ？

井森 そういう話じゃないでしょ？ 私はキミを。

夏虫 羽鳥さんに、タカラのことを話した時、信用されないと思った。絶対に。

井森 うん。

夏虫 逆の立場だったら、俺は信じられない。羽鳥さんは、でも、俺の言葉を
信じた。井森って言う証人がいたからかもしれないけど、でも、逆の立場だっ

たらやっぱり俺は信じられないから。

井森 すごい人だよー。

夏虫 うん。俺にないもの全部持ってる。

井森 そうかな。

夏虫 全部持ってるのに、いつもどこか寂しそうだった。

井森 そうかも。

夏虫 でも、だから、タカラのことを信じてくれた気もする。

魚見、宝箱を持って舞台上に出てくる。夏虫、井森、去る。

魚見、宝箱を舞台中央に置く。

○思い出2

タカラが出てくる。周囲を見渡すタカラ。空をじっと見つめる。
夏虫、入ってくる。

夏虫 猫田さん？

タカラ あ。あの、好きです！ 付き合ってください。

夏虫 ちよ、まつ。え？ 猫田さん？ え？ うそ？ え？ なんで？ え？

猫田さん？

タカラ 好きです！

夏虫 いや。ちよつと急つていうか、え？ あ。いや、嫌いとかそういうこと
ではなく、え？ いや。

タカラ 好きです！

夏虫 心の整理というか、そう、急？ 急だから？ ちよつと、あのね、いや。

タカラ 好きです！

夏虫 急なんだよね。

タカラ 急？

井森が入ってきて悲鳴をあげる。

井森 きゃーーーーー

夏虫 なんだよ？

井森 夏虫くんが、夏虫くんと喋ってる。

夏虫 はあ？

タカラ、井森に近づいていく。逃げる井森！

井森 きゃあ！ いやあ！

夏虫 大きい声出すなよ！

井森 だって2人！ 夏虫くんが2人！

夏虫 俺が2人？

井森 ほら、だって！ ほら！

夏虫 いや、わかんないって！

タカラ、井森に近づく。

井森 来ないで！

夏虫 猫田さんになんてこと言うんだ！

井森 猫田さん？

夏虫 猫田さんだろ。

井森 夏虫くんだよ！

夏虫 猫田さんだよ。

タカラ (井森に向かって)好きです！ 付き合ってください！

井森 え？ ちょ、まつ。え？ 夏虫くん？ いやん。待つて。 え？ う

そ？ え？ なんで？ え？ いや。ちよつと急つていうか、え？ あ。いや、

まさか、そんなこと夏虫くんがいうと思つてなかつたから。急というか。

タカラ また急？

井森 そう！ ていうか、まず2人！ 2人なのよ！ なんで夏虫くんが2

人なのよ！

タカラ 2人？

夏虫 俺が2人？ 何言つてるんだ？

井森 だつて、ほら！ 2人！

夏虫 猫田さん？

タカラ 猫田？

井森 違つて！ 夏虫くんじゃん！ 夏虫くんが？

タカラ 夏虫？

夏虫 猫田さん、どうして急に？

井森 だから夏虫くんだつて！

タカラ 好きです！

井森 ちよつと整理！ 整理したい！

夏虫 いや、整理したいのは俺だから！

井森 え？ まず何？ 今、夏虫くんは2人いる？

夏虫 いない。今ここにいるのは、俺、井森、猫田さん。

井森 もう違つ。猫田さんじゃない。夏虫くん。

夏虫 はあ？ 俺、井森、猫田さん、だろ？
井森 違う！ 夏虫くん、夏虫くん、井森、だよ！
夏虫 いや、なんで俺が二人出てくるんだよ！
井森 だって夏虫くん二人いるんだもん！
夏虫 いや、井森、俺、猫田さんだから！
井森 夏虫くんなんだって！
夏虫 同じ人間が二人もいるわけないだろ？
井森 いるわけないからびっくりしてるんでしょ！
夏虫 はあ？ だから！ 猫田さんだよね？ 俺に好きって！
井森 違う。夏虫くんが私に好きって！
夏虫 はあ？ 言う訳ないだろ！ ねえ猫田さん！
タカラ 好きです！
夏虫 猫田さん、好きですしか言わない。
井森 あ、夏虫くんあれじゃない？
夏虫 あれ？
井森 あれ！ あれだ！
夏虫 だからなに、あれなに？
井森 夏虫くんの好きな！ あれ！
夏虫 なにあって？
井森 SF！ B級映画の！
夏虫 「サキユバス・スペース・インキュバス」？
井森 それだ！ それ！
夏虫 え？ は？ この猫田さんがサキユバスかインキュバスってこと？

魚見が出てくる。夏虫と井森、気づかずに進行。

井森 そうそれ！ わかんないけど！ うん。それな気がする。
夏虫 いやいやいや、そんなわけないって。そんな訳ない。
井森 だって夏虫くんが2人に見えてるんだよ？ で、夏虫くんには猫田さ
んに見えてるんだから。
夏虫 いやいやいやいや、ないないない。
井森 だって猫田さんが夏虫くんに「好きです」なんて！

夏虫 いやいや、それはなんか、ねえ！ ねえ、キミは猫田さんだよね？
タカラ 猫田さん！
夏虫 ほら猫田さんだって！
井森 猫田さんなら自分で猫田さんって言わないでしょ！（夏虫に向かっ
て）あなたは誰？
夏虫 いや、俺は夏虫だから！
井森 あ、そっか。こっちは本物なのか。
夏虫 流れでわかるだろ！
井森 わかんないよ！ 私には全く同じに見えてるんだから！（タカラに）
あなたは誰ですか？
タカラ 誰？ 好きです！
井森 ダメだ。好きですしか言わない。どこから来たの？
夏虫 宇宙かも。
井森 宇宙？
魚見 ちよいと。
夏虫 だってフィクションだろ？ サキュバススペースインキュバスは。
井森 でもそう言うやつじゃないと説明つかないでしょ！
夏虫 はあ？ いや、だって！ 落ちてたんだよ！ この箱が！ で、なんだ
ろうと思っで、猫田さん！ で、わーっ！ で、好きです！ で、わーっ！
で！ 井森が来て、夏虫くん？ で、わーっ！ だよ！
井森 え？ どうしよ。先生に言う？
夏虫 いや、うん。まあ、そうだよな。大騒ぎになる前に。
タカラ 夏虫くん、待って！
夏虫 え？
タカラ 夏虫くん、ちよつと整理！ 整理したい！
夏虫 整理？
タカラ 夏虫くん、好きです。猫田さん。井森さん、好きです。夏虫くん。
井森 ちゃんと喋った？ ねえ、今、状況整理した？
魚見 学習したんですねえ。
夏虫 魚見先生！
魚見 どうも。
井森 ああ！ そうだ魚見先生！

魚見 はい？

井森 魚見先生、ちよつといきなり変なこと言うんですけど、この、なんていうか、この人、どう見えます？

魚見 (嬉しそうに)この人？ この人ですか？

井森 はい。

魚見 (くくつと笑つて、)それはそれは素敵な殿方に見えていますよ。

タカラ 魚見先生、好きです。付き合ってください。

魚見 この子には、人間社会で見境いなく、誰彼構わずに好意を伝えると、その好意が受け入れられにくいと言うことを教えないといけませんね。

井森 どうしてそんなに冷静なんですか？

魚見 ははははは。

井森 いや、ええ！？

夏虫 (同時に)はあ？

タカラ 魚見先生、ご主人様。

夏虫 ご主人様？

タカラ 魚見先生、ご主人様。

井森 ご主人様ってどういうことですか？

夏虫 「サキュバス・スペース・インキュバス」そのままでしたら、これは宇宙人の愛玩動物。そのご主人様ってことは？

魚見 しいっ！ 秘密です！

夏虫 え？ ええええ！

井森 魚見先生がうちゆ

魚見 ストープ！ それ以上はNGです！

夏虫 いや、え？ ええ！ 完全に「サキュバス・スペース・インキュバス」だ。

井森 そうなの？

夏虫 見てないのかよ。

井森 まあ。

夏虫 見ろよ。

井森 夏虫くん、プレゼン下手なんだもん。

夏虫 俺のせいだよ。

タカラ 夏虫くん、プレゼン下手、好きです。

夏虫 ほら変なこと覚えた！
魚見 これは非常に興味深いですね。
井森 あの、これ、どうしましょう？
魚見 保護しましょう。
井森 警察とかですか？
タカラ 警察？
魚見 我々で保護するんですよ。
タカラ 保護？
井森 え？
魚見 だって想像してみてくださいよ。政府の手に渡ったらどうなるか？
夏虫 研究施設送りで、隅々まで調べられて、マスコミの好奇の目に晒されて、元気はなくなり、寿命は縮まり、
魚見 はいはいもう結構。ね？ 我々で保護しましょう？
井森 でも。
夏虫 うちに置きます！
井森 はあ？ 何言ってるの？ 子犬匿うのとは訳が違うんだよ？
夏虫 大丈夫。俺の部屋の押し入れなら、両親にも見つからないし。それに所謂宇宙人と違って変わった見た目をしている訳じゃないし、もし見つかったも相手が一人ならうまくやれる。
魚見 面白いので、そうしてみましようか？
井森 いいんですか？ そんなの？
魚見 これも「教育」ですよ。
夏虫 たまに連れてくるから。
井森 どうやって？
夏虫 ……フード被って貰えば誰から見てもフード被った人になるんじゃない？
井森 い？
井森 今は何着てる？
夏虫 制服だけ？
魚見 なるほど。

魚見、白衣を脱いでタカラに着せる。

魚見 私からは白衣を着て見えますね。
井森 私もです。白衣の夏虫くんです。
夏虫 白衣の天使です。
タカラ 白衣の天使！
井森 猫田さんね。
タカラ 白衣の猫田さん！
井森 そうか、地球の服を着せたらそれはみんなからも同じに見えるんだ。…
：…なんだろう。私、すごい冷静になってきてる。事態を飲み込み始めている。
夏虫 (同時に) そうか、地球上の物質だから、ああ、なんだこれ、すげー。
井森 何笑ってんの？
夏虫 なんか今、俺、生きてて一番楽しいかもしれない。
魚見 いい傾向ですね。
タカラ 生きてて、楽しい！ 好き！
夏虫 そう！ 楽しい！ 好きだ！ 猫田さん！
タカラ 夏虫くん、好きです！
井森 んー。ちよつと、嫌だな。
夏虫 嫌？ 何が？
井森 呼び方。私からは夏虫くんに見えてるんだよ？
夏虫 違う人にしたら？
井森 本当に。ねー。
夏虫 猫田さんって呼ぶのが嫌ってこと？
井森 名前つけてあげたい。
夏虫 そんなの「サキュバス・スペース・インキュバス」にはなかったなあ。
井森 別にその映画通りにしなきゃいけない訳じゃないでしょ？
夏虫 まあね。
井森 じゃあ、タカラは？
夏虫 タカラ？
井森 その宝箱みたいなのから出てきたんだから。
夏虫 桃から生まれた桃太郎じゃないんだから。
魚見 いいじゃないですか、タカラ。性別不詳ですし。
夏虫 でも、なんか、もうちよつとこう、ミク、とかリンとか、ルカとか。
井森 タカラ！ タカラで決定！ いい？ あなたの名前はタカラ！ ね！

タカラ タカラ！ 私、タカラ！ みんな大好き！

魚見 タカラはまだ生まれたてのようです。これからみんなで色んなことを教えてあげましょうね。

全員出てきてキャッチボールをする。

○思い出連鎖

タカラのいる日々。

タカラ 夏虫くん！ キャッチボールしよ？

夏虫 また？

タカラ 魚見先生に教わった！ キャッチボールすると仲良くなれる。タカラは夏虫くんのこと好き！ だからキャッチボールする！

夏虫、タカラ、キャッチボールする。

魚見 私が言ったのは心のキャッチボールですよ。

夏虫 わかりづらい例えしないでくださいよ！ おかげでこっちは毎日汗だくですよ。

魚見 でも一緒に汗をかくのも心のキャッチボールの一環ですよ。

夏虫 そうかもしれないですけど。

再びキャッチボール。

タカラ デート？

井森 そう、手を繋いでお出かけするの。

タカラ そうしたら夏虫くんは喜ぶ？

井森 絶対喜ぶと思う。あ！ でも！

タカラ でも？

井森 出かけていいのは夜中だけ。しっかりフードをかぶってお出かけすること。

タカラ わかった！

夏虫、タカラ。家にて。

タカラ デート楽しかったね！

夏虫 ん？ ああ。

タカラ ますます夏虫くんのこと好きになったよ。

夏虫 ありがとう。

タカラ 手を繋ぐのってあつたかいね！

夏虫 あつたかいか？

タカラ うん。手を繋ぐのもキャッチボールと一緒に。

夏虫 一緒か？

タカラ あつたかくなる。あつたかくなると、夏虫くんのことをもっともーっと好きになる！

夏虫 そりやよかった！ じゃあもっともつとあつたかくなろうか！

タカラ うん！ もつともつともーつとあつたかくなる！

夏虫、タカラ。屋上にて。

タカラ 合宿？

夏虫 笑える？

タカラ なんで？

夏虫 俺が合宿なんてさ。

タカラ 楽しそう！

夏虫 そう。ちよつと、楽しそうって思っちゃったんだよな。

タカラ 思っちゃった？

夏虫 自分でもらしくないことしてんなって思うんだけど。

タカラ らしくない？

夏虫 なんか、気分が変わったと言うかさ。

タカラ 変わるの悪いこと？

夏虫 ……悪いことじゃない。

タカラ じゃあ変わろう！ 変わろう夏虫くん！

夏虫、去る。キャッチボール終了。
井森、タカラ、屋上にて。

井森 ねえタカラ？

タカラ 何？

井森 私にはタカラがずっと夏虫くんに見えるの。

タカラ うん。

井森 それって、そう言うことだよ？

タカラ そう言うこと？

井森 なんかさ、タカラって鏡みたいだよ？

タカラ 鏡？

井森 私、文芸部にも入ってるでしょ？

タカラ うん。井森は天文部と文芸部。

井森 私、天文も文芸も興味ないんだよ？

タカラ 好きじゃないってこと？

井森 うん。

タカラ なんで？

井森 身の程？

タカラ 身の程？

井森 小さい頃さ、すごい可愛いキャラクターの靴下が欲しくて、可愛いピンクの筆箱が欲しくて、学芸会ではお姫様の役がやりたくて、でもその度さ、「あなたには似合わない」って、そう言われてきたの私。

タカラ ええ？ 井森似合うよお姫様！

井森 ありがとう。でもキラキラした世界が似合わないの。私。

タカラ そうかな？ 井森、似合うよ。キラキラ。

井森 ありがとう。私さ、今いっぱい勉強してるでしょ？

タカラ うん。井森頑張ってる。偉い。

井森 偉くないんだよ。

タカラ なんで？

井森 私が頑張ってるのはね、壊すためなの。

タカラ 壊す？

井森、タカラ去る。猫田、亀岡。屋上にて。

亀岡　なんで？

猫田　えー。

亀岡　なんで関西行くの？ 京都じゃなくて、東京でいいじゃん。

猫田　えー。だって、なんかその方が楽しそうじゃない？

亀岡　私、関西は行けないのに。

猫田　そっかー、残念。

亀岡　東京でよくない？

猫田　んー。なんかさ、東京は「見える」んだよねー。でもなんか、関西は

見えなくて。見えない方が面白くない？

亀岡　面白くない！ 見えないのは怖いだけだよ。

猫田　夏虫くんがさ、この前、UFO呼んでたんだよねー。

亀岡　何それ？ 馬鹿みたいじゃん。

猫田　一緒に呼んだんだけど、面白かった！ もしかしたら来るかもって、思

っちゃったんだよね。

亀岡　愛、覚えてる？

猫田　何を？

亀岡　幼稚園の頃さ、狸を見かけてさ。

猫田　狸？

亀岡　私はやめようって言ったんだけど、愛は山の深い方まで、どんどん追

かけてって。私は途中でついていけなくなっちゃって。

猫田　そんなことあったっけ？

亀岡　愛、崖から落ちて大怪我したんだよ？ 覚えてないの？ 大人たちが

山に捜索に入ってたさあ！

猫田　ああ。あれ狸だったっけ？

亀岡　愛は、なんですぐ遠くに行っちゃおうとするの？

猫田　んー、（下を向いて）こう見るよりさ、（屋上の柵に手をかけて）こう見

た方が楽しくない？

亀岡　愛は知らないんだよ。

猫田　何を？

亀岡　世界は愛が思ってるより楽しくないってこと。

猫田 そうかなあ？

亀岡、猫田去る。

魚見、植田、屋上にて。

魚見 天文部の合宿ですか。楽しそうですね？

植田 楽しいに決まってるじゃないですか。久々にワクワクしてます。

魚見 植田先生はイベントがお好きですもんね？

植田 魚見先生はお嫌いですか？

魚見 嫌いというか、あまり必要性を感じないですよ。

植田 魚見先生はドライですね？

魚見 ドライ？ 冷たいということですか？ そんなことはないと思います
が。

植田 (笑って)ご自身でお気づきになっていないんですね。

魚見 なぜ笑うんです？

植田 先生たちの間でもよく話題になってますよ。魚見先生は怖いって。

魚見 怖い、ですか？

植田 こういう話をして嫌な顔ひとつしないじゃないですか？

魚見 嫌な顔をする必要性はないのでは？

植田 嫌じゃないですか？ 陰口みたいで。

魚見 そういうものなんですネ。

植田 心のガードみたいなのが分厚いんですかね？

魚見 特にガードしているような意識はないんですけどね。

植田 親から虐待を受けてる子はね、泣いたり叫んだりすると余計、親が苛立
つので、だんだん、痛い時、苦しい時に笑うようになるんですって。

魚見 私は虐待なんて受けてませんよ？

植田 まるでそんな風だなど思っただけです。

魚見 人間、喜びだけで生きていく方が幸せですよ。

植田 そりゃあ、そうですねー。

植田、魚見、去る。(魚見、宝箱を回収。)

羽鳥、席に座る。

猫田、羽鳥の前を横切って去る。
猫田と入れ替わりで、夏虫と井森が入ってくる。

○事件から1年ほど前2

夏虫と井森、羽鳥。

羽鳥 まさかここで「サキュバス・スペース・インキュバス」が出てくるとは
思わなかった！ 鬼才監督明日汚名(あすおめい)の至極の逸品！ 俺たち世
代のコアなSF好きはみんな知ってる名作なんじゃないか？ え？ 待てよ。
猫田愛って！ これに出てくる宇宙人の愛玩動物役の？

夏虫 はい。

羽鳥 同級生だったの？ 言ってくれよ？ 言ってくれたら俺、そっちの高
校にしてたって！

夏虫 入学してから知ったんで。

羽鳥 転校するって！

井森 転校しても、羽鳥さん、私たちの3個上なんで被りませんけどね。

羽鳥 詐称する詐称する！

夏虫 羽鳥さんならできそうで怖いですよ。

羽鳥 流石に無理だよ。

井森 有名なんですわやっぱり。

羽鳥 何が？

井森 「サキュバス・スペース・インキュバス」

夏虫 有名も何も知らなきゃにわかだな。

羽鳥 猫田愛だって、その一本しか出演してないのにまだにファンが追
かけてるって聞くよ。

井森 へー、すご。

羽鳥 見た？ 「サキュバス・スペース・インキュバス」。

井森 見てないです。

夏虫 見てないのかよ。

井森 夏虫くん、プレゼン下手なんだもん。

夏虫 まだそれ言ってるの？

井森 ま、結局そもそもSFには興味ないってことなのかね。
夏虫 他人事みたいに。
羽鳥 ねえ、二人はどういう関係なの？ 付き合ってるの？
夏虫 ただの同級生です。
井森 (同時に)ただの「同居人」です！
羽鳥 ん？ えーと、同級生で同居人？
井森 先週から一緒に住み始めたんです。
羽鳥 あ、そうなの？ もしかして俺と初めて会った日？
井森 そうです。
羽鳥 その時10年ぶりだかなんだかって。
井森 はい。この人行方くらましてたんで。
夏虫 別にくらましてない。
井森 信じられませんか？ あの日この人帰るあてなかったんですよ。
お金も全然持ってないし。
羽鳥 自由人だね。
夏虫 クズって言うってくれて構わないですよ。
羽鳥 クズはなかなか宇宙人には会えないでしょ？
夏虫 関係あります？
井森 あ！
夏虫 なに？
井森 この後打ち合わせあるの忘れてた。家戻らないと。
夏虫 こんな時間から？
井森 この時間しか空いてないって言うから。
夏虫 はあ。
羽鳥 そっか。
井森 羽鳥さんもお帰りになります？
羽鳥 いや、俺はもう少しここにいますよ。明日は午後からなんでね。
井森 重役出勤ですね。
羽鳥 小さい会社だからね。
夏虫 年商100億超えててですか。
羽鳥 そう、まだまだ小さいね。
夏虫 羽鳥さんの、そういうところ、純粹にすごいなって思いますよ。

羽鳥 ありがとう。
井森 じゃあまた今度。
羽鳥 うん。また飲もう。

夏虫、井森、去る。
一人で飲む羽鳥。電話をかける。

羽鳥 ああ、羽鳥です。すいませんねー。なかなかお返事できなくて。あの、例の件、俺、ぜひやってみたいと思ひまして、はい。乗ります。ロケット。

そこに猫田が現れる。

羽鳥 つはは。これはどう言う偶然かな？

猫田 え？

羽鳥 こんなところで有名人に会うなんて。

猫田 有名人？ 有名人は羽鳥さんの方では？

羽鳥 そうだね、でも、きみは猫田さん？ だよな？

猫田 そうですけど……。

羽鳥 ああ、こう言うのをなんて表現すればいいんだ？ そうだな、「星が落ちてきたような感覚。」と言えればいいのかな。

猫田 「星は空に浮かんでるから星なの。落ちてきちゃったら、それはただの岩の塊よ。」

羽鳥 ああ！ 間違いない！ きみは「あの」「猫田愛」なんだね！

猫田 未だに熱心なファンの人が出て、私は嬉しいです。嬉しいけどなんか、昔のことすぎて、くすぐったいな、と思います。

羽鳥 ああ、くすぐりたい！ こんなにくすぐったくなかったのは、この世に生を受けて以来だよ！

猫田 酔ってるんですか？

羽鳥 ああ酔ってる。今夜は最高に酔ってるよ。

猫田 変な人ですね。泣いてるんですか？

そこに亀岡が現れる。

亀岡 勝手に出歩かないで！ つて言ってるでしょ？
猫田 理央。なんでここが？
亀岡 わかるよ。愛のことは。
羽鳥 あの、あなたは？
亀岡 誰ですかあなた。
羽鳥 あ、私は。
猫田 知らないの？ 羽鳥社長。
亀岡 羽鳥社長？ あの？
猫田 そう。
亀岡 なんでこんなところに？
猫田 さあ。
羽鳥 すいません。初めまして。羽鳥と申します。小さいWEBコンサルの会
社の代表をしています。
亀岡 亀岡理央です。猫田の、「同居人」です。
羽鳥 「同居人」？
亀岡 はい。
羽鳥 「同居人」とは？
亀岡 言葉のままです。「同居人」。
羽鳥 そうですか。
亀岡 愛。帰るよ！
猫田 う、うん。
亀岡 すいません。じゃあ私たちはこれで。
羽鳥 「同居人」さん！
亀岡 私ですか？
羽鳥 はい。初めてお会いした「同居人」さんに対して、非常に不躰なお願い
をしてもよろしいでしょうか？
亀岡 言ってみてください。なんですか？
羽鳥 猫田さんと2人でお話したいんです。
猫田 私と？
亀岡 2人で、お話？
羽鳥 気恥ずかしいんですけど、憧れの人なんです。猫田さんは。
亀岡 ダメです、と言ったら？

羽鳥 今晚の彼女との時間を「同居人」であるあなたから、1000万円で購入
ます。

間。

羽鳥 もちろん話すだけです。彼女の、憧れの人の嫌がるようなことはしませ
ん。いや、するはずがない。

猫田 そんな私、お金なんて。

亀岡 どうして100万円も？

羽鳥 それくらい、私は今日のこの日の出会いを奇跡と感じているんです。

亀岡 それでも、ダメです、と言ったら？

猫田 理央！

亀岡 ちよつと黙ってて！

猫田 でも。

亀岡 ダメですと言ったら？

羽鳥 ……1000万円、出します。

猫田 何言ってるんですか？

羽鳥 すいません。私だってこんなやり方を望んでいるわけではないんです。

ただ私には時間がないんです。

猫田 時間？

羽鳥 どうでしょうか。「同居人」さん。1000万円です。

亀岡 ……もし。

羽鳥 もし？

亀岡 ……いえ、わかりました。1000万円で今晚は引きます。

羽鳥 口座をお伺いしても？

亀岡 はい。

亀岡、羽鳥にスマホの画面(口座)を見せる。

猫田 理央、よくないよ。1000万円も受け取れないよ。

亀岡 これは私とこの人のお話だから。

猫田 私は？ 私は関係ないの？

亀岡 1000万円は私たちの生活費になる。愛のためでもあるんだよ？
猫田 でもこんなのおかしいよ？
羽鳥 よろしいでしょうか。「同居人」さん？
亀岡 はい。絶対に愛の嫌がることはしないでくださいね。
羽鳥 もちろんです。
亀岡 愛。
猫田 なに？
亀岡 朝までには帰ってきてね。
猫田 何それ。

亀岡、去る。

羽鳥、猫田会話の様子。

羽鳥、猫田に手を振る。猫田去る。

井森と夏虫が出てきて、一緒に電車のボックス席に座る。

羽鳥、酒の缶を拾って、中身がないことを確認し、去る。

○事件への道のり3

井森 明日汚名ってすごい名前だよ？ 明日が汚名だよ？

夏虫 この一作だけっていう気概を感じるけどね。

井森 気概ねえ。

夏虫 後になって気づいたんだけど。明日汚名って、ローマ字にして並び替えると魚見冴なんだよね。アナグラムだったんだ。

井森 え？ じゃあ魚見先生が撮ってる訳？

夏虫 本物が撮ってんだもん。そりゃリアリティある訳だよ。

井森 ねえ、「サキユバス・スペース・インキュバス」って最後どうなるの？

夏虫 意地でも見ないんだな。

井森 タカラみたいな宇宙人のペットを拾った主人公はさ、どうなるの？

夏虫 「サキユバス・スペース・インキュバス」の主人公は、今の俺みたいなおっさんで、タカラは中学時代の猫田愛。ビジュアルだけで想像つくでしょ？

井森 そんな作品を私に薦めたの？

夏虫 何か勘違いしてない？

井森 何を？ ビジュアルを？

夏虫 「サキュバス・スペース・インキュバス」の主人公は、何にもできないんだよ。

井森 何にも？

夏虫 それが名作と言われる所以さ。B級だけどね。

井森 何にもできないってどう言うこと？

夏虫 「星は空に浮かんでるから星なの。落ちてきちゃったら、それはただの岩の塊よ。」

井森 セリフ？

猫田、亀岡が出てきて立ち話をする。

夏虫 猫田愛の、最後のセリフ。ラスト10分。主人公は愛玩動物が死ぬまで、じつと。ただじつと見つめ続けるんだ。愛玩動物が息を引き取るまで。主人公にとつて、宇宙人は「宇宙にいるから」宇宙人なのさ。魚見先生も、ねえ。そんな感じじゃないでしょ？

井森 まあね。そのラストはさバッドエンドなの？

夏虫 どうか。でもあの作品はSFと俺らの「距離」を教えてくれた。

井森 夏虫くんは、あれもこれも「離れてる」のが好きなんだね。

夏虫 好きかどうかはわからない。でも「離れていない」と生きていけないんだ。
だ。

井森 怖がり。

夏虫 俺から見れば、井森が怖いもの知らずなんだよ。

井森 違うよ。怖いけど、頑張って近づいてるだけだよ。

夏虫 そのペンダント。

井森 あ、気づいた？

夏虫 なんで？

井森 どんな理由があるうとき、夏虫くんが唯一私にくれたプレゼントだからね。

植田が出てくる。舞台の奥でスマホをいじる。

井森、夏虫、去る。

○思い出3

屋上。

亀岡　ねえ知ってる？　植田が天文部で合宿企画したんだってさ。

猫田　いいよねー。楽しそう。

亀岡　植田と同じ宿に泊まるとかキツくない？

猫田　そうかなあ。

亀岡　絶対キツイって！　お風呂とか覗いてきそうだし。

猫田　えー、そんなことしないでしょ？

亀岡　だって植田ってなんかキモくない？　人との距離感バグってるっていうか。

猫田　そう？

亀岡　あ！　ねえねえ。私たちも行かない？

猫田　どこに？

亀岡　合宿だよ！

猫田　なんの？

亀岡　勉強合宿！

猫田　え？　楽しそう！　どこ行く？

亀岡　愛の家でさ、1週間くらい泊まって。

猫田　うち？　天文部みたいにどっか行かないの？

タカラが出てくる。

亀岡　だって、お母さん許してくれないし。うち、お金ないし。

猫田　そっか！　じゃあうちでもいいか！　楽しそうだしね！

亀岡　でしょ？　愛、古文得意でしょ？　教えて欲しいんだよね。

猫田　あ！　じゃあ私も、数学教えて欲しい！

夏虫、入ってくる。

亀岡　数学は私も苦手だって！

猫田 そうだっけ？

亀岡 中学までは得意だったけど、高校入ってから無理になったの。

井森、入ってくる。

猫田 そっか！ じゃあ数学得意な人も呼ぼう！

亀岡 え？

猫田 数学得意な人って誰かな？ りえとか？ あ、みきも得意じゃなかったっけ？

亀岡 そうだね。

○思い出4

猫田、亀岡、去る。

天文部。合宿先。

植田 ああ、かゆい！ 痒い痒い痒いかゆい！ なんだここは！ ノミだらけかよ！

夏虫、井森、タカラが座っている。

井森 あ、先生起きたんだ。

植田 もうちよつといい宿とつてくれよ。ひどいぞこの布団。

井森 何言ってるんですか。天文部の活動は基本的に夜ですよ。寝床なんて気にしちゃいけません。大事なのは空です。

植田 程度つてもんがあるだろう。なあ「猫田」。

タカラ 植田先生は潔癖だから。

植田 潔癖ってほどじゃないんだけどな。

夏虫 潔癖な人は教師には向いてないんじゃないかと。

植田 夏虫のくせに言うねー。で、どうよ収穫は？

夏虫 微妙ですね。

植田 微妙ってなんだよ？ 満開の星空じゃないか。田舎とはいえ、うちの学

校の屋上からじゃなかなかここまでは見えないだろ？

タカラ うん。すごく綺麗。

植田 なー。

井森 星はいいんですけどね。

夏虫 目的は星だけじゃないんで。

植田 UFOか？ ナイナイそんなの、宝くじ当てる確率より低いって。この
星空で十分だと思わなきゃ、な。

タカラ タカラくじ。タカラのくじ。

井森 先生は！ 宝くじ当てたら何しますか？ 3億円。

植田 3億かー。

井森 貯金はなしですよ。

植田 井森はどうするんだ？

井森 政治資金にしますかね。

植田 政治家にでもなるのか？

井森 政治家になりたい訳じゃないんですけど、日本は変えたいなあって思
つてます。

植田 その歳で日本を変えたいなんて変わってるなあ。偉い偉い。

井森 家庭教師の先生が、いいんですかね。

植田 ふうん。

井森 なんか考え方が変わって楽になりました。

植田 俺もそういう恩師に出会って楽になりてえよ。

タカラ 植田先生は今のままでも十分立派じゃないですか。

植田 (笑って) まあな！ なんつって！ 褒めても何も出ないぞ？

タカラ 明日のお昼。

植田 夕飯に続いてまた奢れって？ 調子いいなー。猫田は3億、どうするん

だ？

タカラ 美味しいご飯。毎日いっぱい食べる。

植田 食いしん坊か！

井森 先生は。

植田 (被せて) 夏虫は？ どうする？ 3億あったら。

夏虫 ……。

植田 考え中で感じか？

夏虫 回してるつもりですか？

植田 ん？ どうした？

夏虫 回してるつもりですか？ 会話。

植田 回してるというか、引率として、顧問としてな、こう場を盛り上げようと。

夏虫 寒いですよ。

植田 寒い？ 確かにこっちは冷えるなー。

夏虫 そういうのも、含めて。寒いですよ。

植田 ……。

夏虫 先生、無理するなって言いましたよね。

植田 ……。

夏虫 5回以上ですよ。

植田 ……。

夏虫 先生が来てから、僕の愛想笑いの数。

植田 ……。

夏虫 先生ってあれですか？ 自分優位じゃないとコミュニケーション取れないタイプですか？ ま、先生っていう職業にはそういうタイプ多いんですけど。

植田 ああああああああ！

夏虫 なんすか？ 暴力すか？

植田 うるせええええええええええ！

間。

植田 夏虫。俺は悲しいよ。

夏虫 勝手に悲しんで下さい。うちの親も勝手に悲しんでました。こないだの模試で早慶E判定だったんで。

植田 あのな夏虫。俺はお前にわかって欲しいんだ。

夏虫 仲良くするコミュニケーションですか？ それなら大丈夫ですよ。社会に出たらうまくやります。今僕がこうしているのは、先生が「無理をするな」と言ってくれたからです。まあ「無理をしろ」って言うなら、ヘラヘラしたいいつもの僕に戻しますけど。どっちがいいですか？

植田 ああああああああああ！

井森 先生。

植田 模試の結果が気になるのか？ だったら？

井森 先生。

植田 ん？

井森 夏虫くんは頭を冷やしたほうがいいと思います。

植田 ああ、そうらしいな。

井森 私と猫田さんで付き添うんで、先生はお部屋でお休みになって下さ

い。

植田 あ、ああ。そうだな。

タカラ また明日ねー。

植田 ああ、また明日。

植田、去る。

井森 突っかかりすぎじゃない？

夏虫 別に。

井森 一応先生のおかげでここ来れてるんだよ。

夏虫 まあ。

タカラ タカラは先生のこと、好きだよ。

夏虫 だからそれやめろって！

タカラ ごめん。タカラすぐ忘れる。夏虫くんのこと以外、好きって言わない。

井森 タカラに何教えてんの？

夏虫 正しい「好き」の使い方だよ。

井森 極端だよ。

夏虫 このくらいししないと、だめなんだよ。それにそもそも植田にはタカラが猫田さんに見えてるんだ。これって相当やばいことだろ。

井森 「サキユバス・スペース・インキュバス」のファンなのかも。

夏虫 まさか。

タカラ 「サキユバス・スペース・インキュバス」。猫田愛主演。夏虫くんが好きなのやつ。

夏虫 ああ。

タカラ 3億円。どうする？ 夏虫くん。

夏虫 ん？ さっきの続きか。

タカラ そう。

夏虫 なんだろうなー。

井森 欲しいものないの？

夏虫 なんか、俺の欲しいものって、お金でなんとかなる感じじゃないんだよなー。

タカラ 美味しいもの食べよ？

夏虫 まあ、それでもいいんだけどね。

井森 夏虫くんは認められたいんだね。

夏虫 何をわかったような口を。

井森 私もわかるよ。同じだもん。認められたい。今、日本はさ、格差社会だなんて言われてるけど、「貧富の差」よりもさ、開いていってるのは、「承認の差」だと思うんだよね。

夏虫 やめてくんない？ お得意の政治話。

井森 ごめん。

夏虫 少しわかるけどね。

井森 そう？

タカラ わかるのか。夏虫くんは流石だね。

夏虫 タカラと一緒にいてさ。

井森 タカラのおかげ。

夏虫 そういう面もある。タカラはいつも俺の味方でいてくれるから。

タカラ タカラは夏虫くんの味方。一生。大好き。

夏虫 一緒にいると、自己肯定感、上がるんだよね。

井森 そっか。

タカラ タカラ、井森も好き。井森優しい。

井森 ありがとう。

夏虫 おい、タカラ。

タカラ あ、ごめん。夏虫くんのこと以外、好きって言わない。

井森 私はよくない？

夏虫 こういうのは例外つくるとダメなんだよ。

井森 最終形はなんなの？

夏虫 最終形ってなんだよ。ゲームのラズボスかよ。

井森 タカラはどうなるの？

夏虫 どうもならないでしょ。

井森 ずっとこのまま続くと思ってるの？

夏虫 まあ、今日ここに宇宙人が来て、タカラを連れ戻しに来たり、もしくはタカラが実は生物兵器で人類滅ぼそうとしたり、そういうことがなきゃ、このままでしょ。

井森 そうかな？

夏虫 なんて？

タカラ 夏虫さんとタカラ、ずっと一緒。ずっとこのまま。

夏虫 ほら、タカラもそう言ってるし。

井森 夏虫くんはタカラに「人間の愛」を教えようとしてるんでしょ？

夏虫 ん？ まあ、「宇宙人の愛」はさっきみたいにならなくともズレるからな。

井森 それは別に構わないけど、「人間の愛」に永遠はないよ。

夏虫 ……じゃあ永遠は残しとけばいいんじゃない？

井森 わかってないね。ちよつと先生励ましてくる。

夏虫 そんなことしないでいいだろ？

井森 明日の昼ごはん、奢って欲しいでしょ？

夏虫 ほんとに世話焼き。お節介。

井森 いいんです。私はそうやって自分の居場所を作ってますから。

タカラ 井森は優しい。

井森 ありがとう。

井森、去る。

夏虫 なあタカラ。

タカラ 何？

夏虫 お迎えのUFO来たらどうする？

タカラ どうもしない。タカラは夏虫さんと一緒にいるよ。

夏虫 ありがとう。

タカラ 夏虫くん、大好き。

夏虫 タカラは俺のこと嫌いにならないもんな。

タカラ うん。タカラは夏虫くんのこと嫌いにならない。大好きだから。

夏虫 あのさ。

タカラ 何？

夏虫 俺、こう言うことするの初めてなんだけど。

タカラ 何が初めて？

夏虫 なんか、照れくさいんだけど。ちょっと考えてみたんだ。

タカラ 夏虫くんはいつもタカラのことを考えてくれる。嬉しい。

夏虫 うーんっていうか、なんだろ。どんなのが似合うか、とかさ、そういうことを考えたんだよな、うん。恥ずかしかったけど、店員さんにも話しかけてさ、こう言う感じの見た目なんですけど、どんなのが似合いますかね、なんて聞いてさ。ま、そんな高いやつは買えないんだけど、まあできる範囲内っていうか、生まれて初めてじゃないかな、必死で、選んだの。これ、タカラにプレゼント。

夏虫、タカラにネックレスを渡す。

タカラ おお！ 嬉しい！ ありがとう！ びっくりした。「急！」急なんでもん！ いや、ちよつと！ え？ 嬉しい！ 夏虫くん、ありがとう！ やっぱり大好き！

夏虫 つけていい？

タカラ うん！ もちろん！ 嬉しい！

夏虫、ネックレスをつけようとするが途中でやめる。

タカラ どうしたの？

夏虫 ほんとに嬉しい？

タカラ うん！ 嬉しい！ 初めてのプレゼント！ タカラのために選んでくれた。似合うやつを選んでくれた。

夏虫 俺が選んだのは猫田さんに似合うやつなんだよ！！！！

タカラ うん！ わかってる。でも嬉しい。タカラにくれるんでしょ？ 大好きだから嬉しいよ。

夏虫 わかんないの？ お前！ 代わりなんだぞ？ 猫田さんの代わり？

わかるか？

タカラ わかるよ。でもタカラは嬉しいよ。

夏虫 あげない。

タカラ え？

夏虫 やっぱりこのネックレスはあげない。

タカラ そっか。でも嬉しいよ。タカラのたを思ってくれるのやめるんだもんね。それにタカラのためにいっぱい考えてくれたんだし、それだけでタカラは嬉しいよ。夏虫くん大好きだよ！

夏虫、タカラにビンタする。

タカラ 痛い。

夏虫 今のはタカラのためでもなんでもない。俺が勝手に殴ったんだ。

タカラ ごめんね。

夏虫 は？

タカラ タカラうまくできなかったから殴られた。次は上手にやるね。夏虫くんに嫌われないように、タカラがんばるね。タカラ、夏虫くんのが大好きだから。

夏虫、タカラに再びビンタする。

タカラ ごめんね。でもタカラ、夏虫くんのこと大好きだから。ずっとずっと一緒にいたいから。もっと上手くやるね、もっと猫田さんになればいいのかな、それがよかったらそう言ってね。

夏虫 猫田さんになったら！ お前が完全に猫田さんになったら！ 猫田さんは俺のことを好きにならないだろ！

タカラ なるから！ タカラ、夏虫くんのが大好きな猫田さんになるから！ だから！

夏虫 だからそれは猫田さんじゃないんだよ！

夏虫、タカラに再度ビンタする。

タカラ　じゃあ頑張る。タカラ、猫田さんじゃなくてタカラを好きになってもら
えるように頑張る。夏虫くんのこと大好きだから。ずっとずっと一緒にいたい
から。(タカラ、涙を流す)ごめん。涙。涙イヤだよね夏虫くん。今止めるから、
ごめんね。ちよつと待っててね。あれ？　止まらない。ごめんね。ちよつと待
っててね。大好きだから。タカラ、夏虫くんのこと大好きだから。ずっと一緒
にいる。

夏虫　あー。もう！　ちよつと！　一回一人にしてくれる？

タカラ　わかった。ごめんね。夏虫くん、一人になりたいよね。夏虫くん一人が
いい。タカラ、夏虫くんのこと好きだから、夏虫くんのこと一人にするね。で
もまた明日ね。

夏虫　ああ。また明日！

タカラ　おやすみ。

タカラ、去る。

間。

井森、入ってくる。

夏虫　昼飯は？

井森　奢ってくれるって。

夏虫　そっか。さすがだな。

井森　さすがでしょ？

夏虫　さすがだよ。

井森　ねえ、今すれ違ったんだけど、タカラ泣いてなかった？

夏虫　見間違いない？

井森　だよね？　泣くっていう行動は起こらないはずだもんね。

夏虫　……極めて人間的だからね。

井森　泣くってことが？

夏虫　うん。まあ。あ！　そうだ。これやる。

夏虫、ネックレスを井森に投げる。

井森　え？　私に？

夏虫 うん。

井森 なんて？

夏虫 なんてって、井森にはいつも世話になってるから。ま、この天文部も井森のおかげである訳だし。

井森 もしかして、私、今日誕生日だって知ってたの？

夏虫 し、知ってる訳ないじゃん！ 植田だよ植田！ 植田が言ってたんだ

よ、合宿前に。気を利かせろ的なさあ。そう、植田に言われたの。言いそうじやんあいつ。だから、まあ、一応。用意しとくか、みたいなき。

井森 ……ありがとう。

夏虫 どうせ安物だし、そんな感謝される覚えは……。

井森 (涙を流して)ごめん。まさか夏虫くんがこんなの用意してくれるって思わなかったから。ちよつとびつくりしちやつて。うん。ごめん。極めて人間的だわ。

夏虫 ……もう今日はUFO来ないな。寝るか。

井森 うん。そうだね。

夏虫 いや、

井森 なに？

夏虫 もうちよつと。

井森 うん。

夏虫 いや、やっぱり。

井森 そうだね。

夏虫、井森、去る。

植田、入ってくる。暫くしてタカラも入ってくる。

植田 おいどうした？ 目が真っ赤じゃないか。大丈夫か？

タカラ 大丈夫。

植田 喧嘩でもしたのか？ いやあ、ちよつと今夜の夏虫はご機嫌ななめだったからなあ。

タカラ 喧嘩してない。大丈夫。ちよつと寒いだけ。

植田 寒いのか？

タカラ でも大丈夫。明日になれば平気です。

植田 いや確かに今日は寒いからな。ちょっと待ってるよ。あったかい飲み物。あ、そうだ！ポタージュあるから、な？飲むか？あったまるぞ？

植田 よしよし、じゃあちよつと待ってるよ。確かポットはなくてやかんがここら辺に。

タカラ ありがとうございます。

植田 あ、そうだ。ロビーは寒いからな。俺の部屋行こうか。暖房つけっぱで出てきたからあったかいぞ。

タカラ あったかい。

植田 ああ。あったかい。

タカラ 人は手を繋ぐとあったかくなる。

植田 え？

タカラ あったかいと幸せになる。

植田 あ、ああ。

タカラ 植田先生も寒い？

植田 え？

タカラ 植田先生、夏虫くんと仲良くなりたいたい。夏虫くんあったかくしたい？

植田 ……そうだな。

タカラ、植田が歩く。

○事件から1年ほど前3

夏虫と井森、羽鳥。

夏虫 ニュース見ました。宇宙、行くんですね。

羽鳥 うん。ちよつと色々悩んでただけだね。君たちの奇跡みたいなお話を聞いて、俺もまだまだやれるかもって思ったんだよな。

井森 まだまだどころか。

羽鳥 いや、ちよつとこれは君たちにも言おうかどうか迷ったんだけどね。

夏虫 なんですか？

羽鳥 多分今日で君たちに会うのは最後になる。

井森 宇宙に行くからですか？

羽鳥 それもあるんだけど、んー。これはマスコミにも言っていないから内緒にして欲しいんだけど、実は俺、もう、先が長くないんだ。

間。

羽鳥 実は医者以後5年って言われてから、今ちようど5年目です。宇宙に行くか悩んでたのも、こんな場所にふらっと来てみたのも、全部、自分の余命がわずかだからなんだよ。

井森 そう、だったんですね。

夏虫 なんて黙ってたんですか？

羽鳥 同情されたくないじゃない？ あー、この人、もうすぐ死ぬから頑張ってるんだ、みたいに思われるのもイヤだしね、俺死ぬ場合でも死なない場合でも頑張るし。ただこのまま2人に何も言わずに去るのもよくないかなーと思ったりしてね。2人は恩人だからさ。

夏虫 恩人？

羽鳥 そうよ。2人のおかげで俺は奇跡を信じてみようって思ったんだよ。若い日の間違いかさ、後悔とか、まあそんなのは、誰にでもあるし、大事なのはさ、未来を信じることじゃない？

井森 まだ最後まで話せてません。

羽鳥 十分だよ。実は俺さ、猫田愛に会ったんだ。本当に偶然だけど、聞いたんだよ。ラスト10分間、どんな想いで演技してたかってさ。俺は泣いた。久しぶりに泣いたよ。

夏虫 会ったんですか？ 猫田愛に。

羽鳥 偶然にも。

夏虫 今どこに住んでるとかって。

羽鳥 それは聞かなかったなあ。探してるの？

夏虫 いや、そういう訳じゃないんですけど。

井森 あの、私、ごめんなさい。ちよつとなんて言葉をかけたらいいか見つからないんですけど、でも、あの、頑張ってくださいね。

羽鳥 うん。ありがとう。ま、俺のこの後のことはさ、そんなに気にしないでくれよ。宇宙でバカに散ってった男ってなっても、俺はそれはそれで嬉しいし

さ。

井森 笑えないですよ。

夏虫 ……あの、今日俺、羽鳥さんにもともと言おうと思つてたことがあるんですけど。

羽鳥 何？ かしこまって。

夏虫 なんか、うまい言い方はできないんですけど、俺、今までの人生で一番つてくらいに、羽鳥さんのこと尊敬してて。

羽鳥 ありがとう。素直に受け取っておくよ。

夏虫 それで、俺、羽鳥さんがいれば、人生やり直せるんじゃないか、明日からもう少し明るくなるんじゃないかって、どんどん思うようになって、俺、今までどんな職場でも、こう人間関係とかで上手くいかなくて、学歴も、親に反発しちゃったせいで手に入らなくて、大した資格とかももってないんですけど、で、そのまま30になっちゃったんですけど、でも本当に尊敬できる、羽鳥さんがいれば、羽鳥さんと一緒なら、本気で、本当にそう思つて、だから、正直こんなお願いできる立場じゃないのもわかつてるんですけど、厚かましいのは重々承知の上なんですけど、なんとか、羽鳥さんの会社で働かせてもらえませんか？ 今のお話を聞いてよりその思いは強くなりました。最後まで、お供させて欲しいです。

羽鳥 ありがとう。そんな風に思つてくれていたんだね。

夏虫 はい。

羽鳥 夏虫くんはうちの会社の新入社員の年収つて知ってる？

夏虫 ……はい。

羽鳥 うちの会社は新卒に1000万円出すんだよね。

夏虫 はい。

羽鳥 確かに夏虫くんは奇跡的な体験をしている稀有な人間だと思うよ。でも厳しい言葉を浴びせるようだけど、それはただの運だ。俺がキミたちに出会えたのもただの運。もつと言えば俺が猫田愛に会えたのもただの運だ。結果俺はそれで、色んな決意をした訳だけど、それはきつと、君たちに会わなくても、猫田愛に会わなくても導き出せたであろう結論だ。

夏虫 そう思います。

羽鳥 君とは宇宙関係の、宇宙関係っていうのもあれか、浪漫を語る上での、友人だと思つてたから、あんまり俺は自分のそういう話はしてないけれど、俺

はこれまで、自分の会社を築き上げるために、そして今のポジションを手に入れるために、おそらく人並み以上の勉強と、人並み以上の努力をしてきた。それはうちの会社の社員もそう。新卒だと大体22年かな。その22年を1年間に1000万円貰えるであろう努力を、経験をしてきた人間が選ばれて、その年収で働いてるんだ。それをたまたま運よく俺と知り合っただけの君が同じだけの年収をもらおうっていうのは虫がいい話だと思わない？ 例えば期間工ってお仕事は俺は相当大変な仕事だと思ってる。それは、肉体そのものを労働力として提供している中でも最高クラスと言ってもいい。経験や知識を提供できない人間のする最高峰の仕事だろう？ で、その平均年収は大体430万円だ。そして君はその仕事ができなかった過去がある。君の肉体と精神力は年間430万円の労働価値を少なくとも生み出すことはできないと言い切れるわけだ。ほぼほぼね。

夏虫 ああ、俺、羽鳥さんと一緒なら無給でも！

羽鳥 まあ、次に君から飛び出す言葉はそれだろうな。それに関しては2つあって初めて成立する。対価があるからこそ責任が伴う。対価のない労働には責任が伴わない。簡単に言えば、バックレやすいつてこと。もう一つは、なぜ無給で働きます、とかアルバイトでいいので働きます、という言葉を最初に出さなかったか、だ。キミはうちの新卒の年収を知ってると言った。つまりあわよくば、新卒と同じだけの年収を得ようという目論みがあるように思われても仕方がない。そんなつもりなかった。というかもしれないが、それは時すでに遅しだ。初めに無給、もしくはアルバイトで、というような心意気を見せられなかった、つまり君の交渉術はその程度のもの、という訳だ。申し訳ないけれど、その交渉術、気の利かなさ一点をとっても、一緒に働くには値しない。何か反論はあるかな？

夏虫 ないです。ないですけど。

羽鳥 「そこまで言わなくてもいいじゃないか」かな？ ロジックが破綻した際に人間が打って出る次の手段はエモーション。感情だ。でもその点で言えば、俺は今あえて君にこんな言葉を投げかけているよ？ おそらく君は多く人間が、自分より頭が悪いと思ってる生きてきたんじゃないかな？ その中で今日、君が俺のことを尊敬してくれると言った。これは本当にありがたいことだ。だからこそ、俺は君のために言おう。君の頭は君が思っているよりも、

井森 羽鳥さん。

羽鳥 さん？

井森 ありがとうございます。

夏虫、井森ボックス席で静止。

羽鳥、去る。

○思い出し

魚見と亀岡。屋上にて。

亀岡 夏虫が変わった？ 知らないですよそんなの。

魚見 第三者の意見が欲しいのですよ。どうですか？ 亀岡さんの目から見て。

亀岡 変わってないでしょ。ずっといじられてますし。

魚見 本当に変わってませんか？

亀岡 ああ。変わったかも。

魚見 ほう！ 何がですか？

亀岡 いじられてる時、前より嬉しそう？

魚見 ほうほうほうほう。

亀岡 もういいですか。

魚見 亀岡さん、もう一つ、質問よろしいでしょうか？

亀岡 なんですか？

魚見 猫田さんのことをどう思ってますか？

亀岡 どうって、なんですか？

魚見 好きなんですか？

亀岡 好きですけど？ それがなんですか？

魚見 それはどういう好きですか？

亀岡 どういう好き？ 好きは好きですよ。どういうとかないです。

魚見、亀岡に顔を近づける。(キスの距離)

亀岡 なんですか急に！

魚見 猫田さんに同じことをされたらどういう気持ちになりますか？

亀岡 なんですか？ それ。

魚見 寂しいですか？ 猫田さんと進路が別々になるのが。

亀岡 なんですか？

魚見 亀岡さんは深い愛を知る人間なんですねぇ！

亀岡 よくわかんないんですけど。

植田、猫田、出てくる。

魚見、亀岡、去る。

○事件への道のり4

井森と夏虫、一緒に電車のボックス席に座る。

井森 あれから書いているんでしょ？

夏虫 何を？

井森 小説。

夏虫 書いてないよ。

井森 嘘ばかり。羽鳥さんはすごい人だなあ。

夏虫 知り合いが丸い地球と映ってる写真を見る日が来るとは思わなかったよ。

井森 すごいよねー。

夏虫 別次元。俺から見れば羽鳥さんも宇宙人だよ。

井森 脱線。してたのかな？

夏虫 12年前？

井森 私は脱線だとは思わないな。

夏虫 じゃあなに？

井森 緊急一時停止？

夏虫 どんな状態だよそれ。

井森 治すために必要な停止ってこと。

夏虫、井森、去る。

○思い出す

猫田、植田、屋上にて。

猫田 あの一、なんですか。

植田 ……いや、すまん。

猫田 ……あの一、すまん。

植田 ……好きです！ 付き合ってください。

猫田 え？ ちょっとわかんない、です。どういうことですか？

植田 いや、違うんだ。教師が生徒にこんなことを言うのがいけないことなのは、わかっている、わかっているんだけど、止められないんだ。

猫田 困ります。急にそんなこと言われても。

植田 合宿の日の夜の会話を覚えてるか？

猫田 合宿？

植田 覚えてないのか？

猫田 覚えてないっていうか。

植田 覚えてないのか！

猫田 いや。

植田 俺は鮮明に覚えてるぞ。初めてだ。初めて、こう、1つになれた感じがしたんだ。こんなことを言ってもわかってもらえないかもしれないが、君しかいないと確信したんだ。君の言葉は俺の心を温めた。

猫田 私の言葉？

植田 俺は、ずっと「冷たかった」んだ。そう、ずっと氷の中にいたような感覚だ。それは友人と一緒にの時も、どんな女性と一緒にの時もそう、自分の周りに常に氷があるような、そういう感覚だ。そしてその氷は、ずっと周りが寒いからできているんだと思ってたんだ。でもあの日、君が教えてくれた。その氷は俺が出しているものだった。冷たかったのは、俺だ。あの日君が俺を「温めてくれた」んだ。

猫田 あの一、本当に、わからないんで、やめてもらえますか？

植田、猫田の腕を掴む。

植田 なあ！ なんで俺を避けるんだよ！ 拒絶しないでくれ！ 俺を！

猫田 きゃああああああ！

植田 (猫田の口を押さえながら) お願いだ！ 君がいれば俺は変わる気がするんだよ！ なあ！ もう寒いのは嫌なんだ！ あったかいフリをするのは嫌なんだよ！

もみ合いになり、屋上の柵が壊れて、猫田が落ちる。

真ん中に倒れている猫田。

周りを囲む夏虫、魚見、タカラ、井森、亀岡。

亀岡 なんで！ 愛！ 返事してよ！ ねえ、愛！ なんでよ！ なんでえ。タカラ タカラのせい？

夏虫 違う！ 俺のせいだ！ 俺がタカラを。

井森 どうしよう。

魚見 これは非常にマズイですね。

タカラ タカラのせいだ。

夏虫 だから違うって！ タカラは悪くない！

タカラ タカラのせいで、猫田さん、夏虫くんの一番好きな人、死んじゃった。

夏虫 だから！

井森 ねえこのままだとタカラのことも。

夏虫 俺が、植田を殺す。

井森 は？ 何言ってるの？

夏虫 そうすれば、タカラのことは守れる。外にばれる事はない。

井森 そんなの。

タカラ そんなのダメ！ 植田先生も寒かっただけ。植田先生悪くない。悪いのはタカラ。

夏虫 やめるタカラ。頼むから。自分を責めないでくれ。

タカラ タカラね！ 夏虫くんのが好きなの。だからね！ タカラが本当の猫田さんになる。

夏虫 は？

タカラ タカラが本当の猫田さんになればね、

魚見 できるかもしれないです！ タカラ自身が能動的に自分の身体の見せ方を覚えれば、タカラは誰から見ても猫田さんになります！

夏虫 そうじゃなくて！ それがなんの解決になってるんですか！

魚見 穏便に済ませたいんですよ。宇宙人絡みで死者が出たなんてことには絶対にしたくない。

夏虫 知らないですよ、そんなの！ 今はどうやってタカラを守るかでしょう？

井森 でもさ、タカラが完全に猫田さんになれば、何もなかったことになるんだよね？

夏虫 井森まで何言ってるんだよ？

井森 だって。

夏虫 タカラ！ 大丈夫だから！ 俺わかったんだよ！ タカラと猫田さんは違うって！ 決めたんだよ！ タカラを、タカラ自身を好きになろうって！

魚見 ダメです。タカラはそんな風にはできていない。

夏虫 できてないってなんですか？

魚見 わかるでしょう？ 「サキュバス・スペース・インキュバス」です。所

詮タカラは玩具ではないんです！

夏虫 違います！ 俺は見たんだ！ 泣いたんだよ！ タカラは泣いたんだ！ だから！

魚見 残念ですが。時間もありません。強行でいきます。タカラ！ いけませんね？

タカラ いけます！

夏虫 ダメだって！

亀岡 ねえさっきから何言ってるの？ 全然わかんない！ 先生！ 早く救急車呼んでくださいよ！ ねえ！ 何してるんですか？ 早く！ 早くしないと愛が！

魚見 亀岡さん。安心してください。ほら！ こっち見て！ 猫田さんは生きています。

亀岡 え？ 愛？

タカラ ごめん。なんかぼーっとしてた。

亀岡 愛！
魚見 処理は私がします！ 皆さんはすぐにここから立ち去って！
亀岡 愛、よかつた。私、本当に心配して。死んじゃったんじゃないかって。
タカラ ごめん。理央。大丈夫だよ。
夏虫 違う！ 亀岡さん！ 違うんだこれは！ これじゃダメなんだ。これじゃダメなんだよおおおおお！

○思い出7

猫田と魚見。

魚見 素晴らしいですね！

猫田 はい？

魚見 私からも、完全に猫田さんに見えます！

猫田 なんですか？

魚見 いえ、すいません。

亀岡(声) 愛ー！ 行くよー？

猫田 あ、ごめーん！ 今行く！ 先生、すいません。私はこれで。

魚見 あ、はい。

猫田去る。

猫田が去る様子を見つめる魚見。

夏虫が来る。無言で魚見を見つめる。

魚見 なんですか？

夏虫、話さず、見つめる。

魚見 なんですか？

夏虫、話さず、見つめる。

魚見 言いたいことがあるならば、その口でおっしゃったらどうですか？

夏虫、話さず、見つめる。

魚見 仕方のないことなのです。あなたがタカラを愛してくれた事には感謝をしています。ですが物事には優先事項というものがあるのです。

夏虫、話さず、見つめる。

魚見 もはや私ですら、猫田さんとしてしか接することができないんです。あの子はもういない。それが事実なのです。

夏虫、話さず、見つめる。

魚見 ……失礼します。

魚見、去る。

夏虫、しばらくその様子を見つめる。

猫田と亀岡が舞台上を歩く。猫田、タカラと入れ替わる。

夏虫、去る。

○事件数日後2

屋上に井森、タカラ、亀岡、魚見。

タカラ 私が宇宙人のペット？

魚見 そうです。

亀岡 ああ。やっぱり。

魚見 亀岡さんは覚えていたんですね。

亀岡 だって！あの状況じゃ継るしかないでしょう？決めたから。あの日から、もう一生愛のことは手放さないって。

タカラ どうして、忘れてたんだろう？

魚見 完全に猫田さんになるためです。タカラとしての記憶は完全な猫田さんになる上で邪魔だったんです。

亀岡 どうしてなんです？ どうして今更真実を？

魚見 (宝箱を指して) 寿命です。

亀岡 え？

タカラ そっか。だから私、最近、変だったんだ。

魚見 夏虫くんの件は本当に偶然なんですよ。つくづく運のいい人です。夏虫くんの件がなくとも、タカラは私が自ら処置をする予定でした。

タカラ 私、死ぬんですか？

魚見 はい。

タカラ そうですか。

亀岡 なんとか、ならないんですか？ 調子が悪いのは知ってたんです。でも、何かあったらと思うと病院にも連れて行けなくて。

魚見 病気ならまだしも、寿命はどうしようも。

タカラ 夏虫くんは？

魚見 猫田さんとなったあなたも、ご存知の通り、あの日からまた不登校。大学には行かずに専門学校に行つて。

タカラ 私、全然知らなくて、夏虫くんに。

井森 それだけ完璧に猫田さんになってたつてことだよ。

タカラ、亀岡、魚見、電車の客に。

○事件への道のり5

井森と夏虫、一緒に電車のボックス席に座る。

井森 年賀状、見たんでしょ？

夏虫 見たよ。

井森 羽鳥さんから。

夏虫 うん。山手線で猫田さんを見かけたってね。

井森 どうしても行くの？

夏虫 うん。まあ、蹴りはつけなきゃってずっと思ってたから。

井森 ねえ夏虫くん。

夏虫 なあに？

井森 私、夏虫くんのこと好きだよ。

夏虫 うん。「ずっと」知ってた。

井森 だよね。

夏虫 でも俺は井森に好かれていい人間だと自分で思ってた。

井森 なんて？

夏虫 なんてだろう。ずっとそう思ってた。

井森 夏虫くんと天文部作る時、私がなんて言ったか覚えてる？

夏虫 うん。「夏虫くんはきっと自分が思ってる以上に面白い人だよ」って。

言ってくれた。

井森 私、今でもそう思ってるからね。

夏虫 うん。ありがとう。

井森 それでも行くんだね？

夏虫 ごめん。俺には絶対必要なことなんだ。

井森 そっか。じゃあ降りるね。

夏虫 うん。

井森 今度は迎えに来てよね。

夏虫 ……。

井森 じゃあ。

井森、去る。

立ち上がる夏虫。

電車の音は続く。

フードを被ったメンバーと、猫田が入ってくる。

タカラ、亀岡、魚見、去り、フードを被って順に出てくる。

横並びになる夏虫と猫田。

夏虫 あ、あの！

猫田 え？

夏虫 猫田さん、だよね？

猫田 夏虫くん？

夏虫 久しぶり。
猫田 うん。
夏虫 今何してるの？
猫田 今？ 何してるんだらうね。
夏虫 え？
猫田 山手線をね、ぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる、ずっと回ってるんだ。
夏虫 たまにあるよね。そういうことしたくなる時。
猫田 たまにじゃないんだ。毎日。
夏虫 そうなんだ。
猫田 理央って覚えてる？
夏虫 う、うん。亀岡さん。
猫田 今、私理央と一緒に住んで。一緒についていうか、理央に住まわしてもらってる感じなんだけど。
夏虫 そうなんだ。
猫田 なんかね、ここ最近ずっと、頭が働かないっていうか、ずーっとぼーっとしちゃって。たまに意識も遠のく感じで。
夏虫 大丈夫なの？
猫田 うん。まあ、理央が面倒見てくれてるから。
夏虫 そっか。
猫田 夏虫くんは？
夏虫 いや、いいんだ俺のことは。
猫田 なんて？
夏虫 一言だけ、言いに来たんだ。
猫田 なに？
夏虫 ずっと、好きでした。
猫田 え？
夏虫 ずっと、ずっと、好きでした。
猫田 ずっと？
夏虫 ずっと。
猫田 そっか！ そうだよね！ 夏虫くんUFOとか好きだったもんね。見てくれてたんだ私の映画。

夏虫 (愛想笑い) そう。そうなんだ。ずっと好きで、それだけ、それだけ伝えたくて。

猫田 そっか。ありがとね。

夏虫 じゃあ、降りるよ。

猫田 あ、そうなんだ。また会えるかな？

夏虫 どうかな。

夏虫が去ろうとする。

その時、フードを被った男(羽鳥役)がナイフを持って奇声をあげ、猫

田に襲いかかる。猫田を庇う夏虫。

その場で崩れる夏虫。

猫田 夏虫くん？

夏虫 ……あ。

○事件から1年ほど前4

夏虫、タカラ、ボックス席に座る。

魚見と羽鳥、屋上にて。

羽鳥 今までありがとうございます。

魚見 お礼を言われるようなことはしていませんよ。

羽鳥 すいません。最後までは直接お礼が言いたいなと思ひまして。

魚見 ああ。そうですね。直接お話するのは初めてですもんね。その行動も非常に人間的で面白い。

羽鳥 そうかもしれません。ありがとうございます。

魚見 感謝される覚えはないと。

羽鳥 いえ、先生。先生のおかげで私はこの地球に生まれて来れたのですから。とても感謝しているんです。

魚見 地球の生活はどうでしたか？

羽鳥 先生。「生きる」って素晴らしいですね。毎日ですよ？ 毎日何か起きて、毎日ちよっと痛かったりちよっとくすぐったかったり、もうちよっ

と・・・生きてみたくなったり。

魚見 そうですか。

羽鳥 先生。

魚見 はい。

羽鳥 私はこの後、先生の教え通りにひっそりと消える予定です。

魚見 はい。そうしてもらえると助かります。あなたの死は多くの人に愛の喪

失を教えるでしょう。

羽鳥 私の実験は成功ですかね？

魚見 ええ、大成功です。ありがとうございます。

羽鳥 本当に、そうでしょうか？

魚見 どうしたんです？

羽鳥 いえ、すいません。なんでもありません。

魚見 そうですか。

羽鳥 私の元になった人間は、今、大変苦しい生活をしていると聞きました。

魚見 はい。そのようですね。

羽鳥 それについてどう思われますか？

魚見 どう？ 残念、ですかね。あなたほどとは言わないまでも彼にも人間界

での成功をおさめるだけの潜在性はあったと思っていました。ワンダーフォ

ーゲル部にいた頃の彼は、面白かったんですがねえ。

羽鳥 彼に愛を教えることはできますか？

魚見 ああ。あなたには伝えていませんでしたねえ。

羽鳥 え？

魚見 おちぶれた後の彼に非常に良く似た人間を見つけたんです。私は彼を

対象に別の実験を試みることにしました。

羽鳥 別の実験？

魚見 別の子を作ったんです。

羽鳥 ……。

魚見 私はあの子を、あなたと真逆に作りました。あなたはワンダーフォーゲ

ル部にいた彼をベースに、外側からアプローチすることで、他人の心を動かす

作りに。あの子は特定のベースを持たず、もともと人の持つ心を受容してその

姿を形成し、他人の心を動かす作りに。その結果、彼は愛を知った。こちらの

実験も成功したのです。私は非常に嬉しく思いますよ。

羽鳥 そんなことを。
魚見 ですから、あなたの質問への答えはイエスと言う事になりますね。
羽鳥 人は一人一人違いますよ？
魚見 そうですね。
羽鳥 ……その、別の子と言うのは今？
魚見 さあ。
羽鳥 ご存知ないんですか？
魚見 あの子の実験はもう終わっていますから。
羽鳥 では既に？
魚見 いえ、諸事情ありましてね。
羽鳥 諸事情？
魚見 様子を見守る事になっているんです。
羽鳥 様子を、見守る。
魚見 あの子の姿を見ているのは非常に楽しいのです。
羽鳥 私はどうですか？
魚見 はい？
羽鳥 私の姿を見ているのは？
魚見 ? もちろん、楽しかったですよ？
羽鳥 そうですか。

羽鳥、去る。

○事件数日後3

屋上に井森、タカラ、亀岡、魚見。

井森 ひどいよね。犯人。誰でもよかったなんて。誰でもよかったから、弱そうな、タカラを狙ったなんて。本当に最低。
タカラ 犯人の顔、羽鳥さんに似てた。
井森 ね。私も報道見てびっくりしちゃった。他人の空似なのかな？
タカラ でも羽鳥さんはずない。
井森 うん。羽鳥さんはもう亡くなってるから、ね。

タカラ うん。

間。

タカラ 私、行かなきゃ。夏虫くんのところに。

亀岡 行かないで。最後まで私といて。

タカラ 理央。ごめん。でも。

亀岡 怒ってるの？

タカラ 怒ってないよ。

亀岡 私が羽鳥に1000万円で愛との時間を売ったの。怒ってるの？ だ

ったら謝るから！ でもあの時、本当にお金がなくて。

タカラ 怒ってないよ。ありがとう。

亀岡 じゃあ。

タカラ でもごめんね。これは、うーん、なんて言うかな。さっき記憶が戻った時にね、猫田愛ちゃんはタカラになったの。タカラはね、夏虫くんが好きだから。

亀岡 私といた12年間は？ なかったことになっちゃうの？

タカラ ならないよ。12年間、本当に感謝してる。本当にありがとう。

亀岡 でも。

タカラ うん。ごめんね。

井森 魚見先生、本当にタカラは助からないんですか？

魚見 生き物の寿命というのはどうしようも。

亀岡 そもそもどうして、寿命がわかったんですか？

魚見 宝箱に書いてあったんですよ。

井森 魚見先生！

魚見 そんなに大きな声を出さなくても聞こえますよ。

井森 タカラを作ったのは、魚見先生なんですよ？ そうだよ？ タカ

ラ！

タカラ 魚見先生はご主人様。ご主人様のいうことは最優先事項。

井森 最初は魚見先生が宇宙人だから、ご主人様って呼んでるんだと思ってた。でも、宇宙人の星には宇宙人がたくさんいるんですよ？ 宇宙人が最優先だと刷り込みが成り立たない。優先順位が破綻するじゃないですか？

魚見 もしタカラを作ったのが私だとしても、寿命は寿命ですよ？

井森 どうして魚見先生はペットの寿命を短く設定したんですか？ そもそもどうしてペットを作ったんですか？

魚見 私の目的は私の星に感情を与えることです。ペットによって愛の誕生を教え、喪失を教える。失うことで、愛は芽生えるのだと、この星で学んだことの一つです。

井森 じゃあその作戦は失敗ですね？

魚見 失敗？ どころか実験は大成功ですよ。ペットは涙を流すまでに成長した。1人は人間界にて成功を収め、自らの力で宇宙へ旅立ち、もう1人はこうして、人間界に溶け込み人を愛するということを知った。これを成功と呼ぶずしてなんと呼ぶんです？

井森 魚見先生の、肝心の宇宙人の心が動いてないじゃないですか！

魚見 私？

井森 羽鳥社長が亡くなった時、あなたは悲しかったですか？ 今、タカラの消えゆく命を見て、実験の成功の喜び以外の感情は湧かないんですか？ それじゃああなたが忌み嫌っている同胞とあなたは大差がないですよ？ 快樂以外の感情が欠損してる！

魚見 欠損？ 私の感情が？

タカラ 魚見先生、ありがとう。私を作ってくれて。

井森 それとも怖くて蓋をしてるんですか？ 失うことで溢れてくる、自分の負の感情から目を背けようとしてるんですか？

タカラ 井森。ご主人様をいじめたら、ダメですよ。

魚見 タカラ。

井森 あなたが映画の中でペットに名前をつけなかったのは、感情を求めながら、その感情を恐れてるからですか？

タカラ 魚見先生？

井森 あなたが悪い行をしたことはただ命を弄んだだけ。あなたの同胞よりよっぽどタチが悪い行為ですよ！ 命をおもちゃみたいに弄んだんです！

タカラ 井森、魚見先生が困ってるよ。

魚見 困っていません！ 弄んだつもりもありません！

間。

井森 魚見先生。今、怒りました？

魚見 私が？ 怒る？ まさか？ いや、私は怒っているのか？

井森 私には、詳しいことはわからないですけど、喜び以外の感情がないなんて、そんな生物！ この宇宙上に存在するんですかね？ 何かの方法で押さえ込んでいただけじゃないですか！

魚見 抑え込む？ 我々が？ 感情を？ いや、しかし、そうだ。ありえるのか？ 喜びのみの感情？ 感情は二律背反。感情Aと感情Bは同時に成り立たない？ というわけではない、のか？ アンビバレントが正？

井森 魚見先生！ そんなことはどうでもいいんです！ 魚見先生は今！ 目の前のタカラをどうしたいんですか？

タカラ 魚見先生？

魚見 ……嫌だ。タカラ！ タカラ！ 死んではダメだ！ タカラ、ああ、私はどうしたら。ああ、そうだ、星だ、星に戻れば、タカラを生かせる設備が。

タカラ 魚見先生。タカラ、宇宙に行くの？

井森 魚見先生！

亀岡 そうすれば助かるの？

魚見 そうです！ 今すぐ出ます！ タカラを冷凍保存して、2度のワープ。耐えられるか？ ギリギリか？

タカラ 魚見先生。タカラ、夏虫くんに会いたい。

魚見 それだ！ 感情は人の寿命を伸ばすと聞いたことがあります！ タカラ！ 夏虫くんに会いましょう。会うために生きるんです！ いいですね！ 生きるんだ！

タカラ うん。生きるよ。タカラ生きる！ それで夏虫くんに会う！ 好きだよって！ ずっとずっとずーっと好きだよって伝えるんだ！ で、また戻ってくる。理央のところ！ また理央と暮らす！

亀岡 タカラ……。

○エピローグ

井森と夏虫、一緒に電車のボックス席に座る。

井森 結局私が迎えに来るんじゃない。

夏虫 ごめん。

井森 小説、どこまで書いたの？

夏虫 最後、2択で迷ってるんだよ。

井森 私が決めてあげようか？

夏虫 いや、最後まで、自分で。

井森 そう？

夏虫 あの日、羽鳥さんに似たやつに刺された時。俺、意識を失う最後一瞬、タカラの、猫田さんの方を見たつもりなんだ。でもその瞬間、見えたのは、そこにあつた姿は、井森だったんだ。

井森 ……やつと見えたんだね。私のこと。

夏虫 今までずっと支えてくれてありがとう。これからは俺も。

井森 (夏虫のPCを奪う。)

夏虫 あ。

井森 ずっと待ってたよ。12年間。いや、初めて会った時からだからもっとか。いつになったら私を見てくれるのかなって。ずっと待ってた。

夏虫 ごめん。

井森 それで、決めてたんだ。私のことを見てくれたら、その時に、これを返そうって。

井森、ネックレスを外して夏虫に渡す。

井森 言ったでしょ？ 今の私は、ブレーキをかけたけど止まらなくて動いてたって。これで、やつと止まれる。

夏虫 井森。

井森、PCを置いて立つ。

夏虫 井森！

井森 あなたはね、ずっと、生きてるかもわからない、帰ってこれるかもわからない、何億光年も先にいる宇宙人のペットを愛して、愛して愛して愛して愛して待つのがお似合いなの。ずっと横にいてそう思ったの。これからの私は、多分。あなたと反対車線に行くの。今まで楽しかった。本当にありがとう。

したまに、すれ違ったら、その時は手くらはいは振ってね。好きだった過去と好きになった今が変わるわけではないから。

ネットクレスを握りしめる夏虫。

幕